浜松大学

研究活動一覧

平成 23･24 年度

平成 25 年 3 月

はじめに

浜松大学の教員の平成 23・24 年度の研究活動を自己報告していただきました。文部科学省は平成 22 年度の省令で、大学は教員の研究活動状況を公表することを義務づけています。今回の浜松大学の研究活動一覧は、平成 21・22 年に次いで２回目です。この研究活動一覧は、著書・論文・学会活動・外部資金の獲得状況・講演等に分類され、各学科にまとめられています。来年度から常葉大学に統合されますので、浜松大学として「研究活動一覧」を出す最後の機会になります。

大学の教員であることの特徴は、言葉や文字によって学生・学会・社会に向かって自分のしていること、考えていることを語りかける、あるいは伝えることができるということです。このような活動は、それぞれの教員が自分自身の研究テーマを追求することによって向上していくと考えられています。従って、大学の教員であることは知的な存在であり、知的活動を通じて満足感あるいは達成感が得られる職業であります。そのためには、研究活動がしやすいように配慮していくことが、ひとつの側面として重要であると考えますが、一方教員は自らの力で外部資金を獲得するために努力をする必要があります。

何をしたいかを明確にし、研究活動を発信してゆくことが求められています。教育は「感動を伝えることである」と言われていますが、この感動を得るためにも研究的側面は重要であります。教員が知的活動によって向上していくことが学生募集、学生の質の保証につながると考えます。

この研究活動一覧が、学内や他大学との共同研究をするための発信、あるいは地域社会や企業から大学を理解して頂くための資料として有効に活用され、さらに教員のやる気を刺激することによってレベルが高まっていくことを期待します。

平成 25 年 3 月

浜松大学 自己点検・評価委員会

委員長　筒井祥博

目　次

ビジネスデザイン学部

経営情報学科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

サービスと経営学科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４

健康プロデュース学部

健康栄養学科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８

こども健康学科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１７

心身マネジメント学科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２５

健康鍼灸学科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３３

健康柔道整復学科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３７

保健医療学部

理学療法学科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４１

作業療法学科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４９

ビジネスデザイン学部

経営情報学科

1）著書

1. 白春驅：『国際経済論』, 三恵社, 2011, 単著.
2. 白春驅：『マクロ経済学』, 三恵社, 2011, 単著.
3. 中村義彦・田代景子：『簿記の基本技法』, 三恵社, 2011, 共著.
4. 中村義彦：『会計の基礎ハンドブック[改訂版]』, 柳田仁編著, pp.284-289, 創成社, 2011, 分担著.
5. 細川壯平：『やさしい企業法』, 山本忠弘他著, pp.145～162, 嵯峨野書院, 2011, 分担著.
6. 向島正喜：『文学空間 Vol.V No. 8 〈触〉の思考』, 芳川泰久他著, pp.158－176, 風濤社, 2011, 分担著.
7. 小沢行正・長崎洋康・向井和男：『[改訂新版]実践情報リテラシ』, ムイスリ出版, 2011, 共著.
8. 中村義彦：『原価計算ガイダンス』, 柳田仁・中村義彦編著, pp.1-25, 中央経済社, 2012, 分担著.
9. 向島正喜：『文学空間 Vol.V no.9 〈晩年〉のかたち』, 中村邦生他著, pp.110－123, 風濤社, 2012, 分担著.

2）原著論文

1. M.Nakamura ： Star-product Quantization in Second-class Constraint Systems. arXiv:1108.4108.2011.
2. M.Nakamura ： Uncertainty Relations and Quantum Effects of Constraints in Chern-Simons Theory. arXiv:1302.4520 [hep-th].2013
3. 細川壯平：経営倫理―その捉え方の一試論―.日本産業科学学会研究論叢第16号, 85-95, 2011.3.
4. 渡部晴之, 蔡篤儀, 李鎔範, 松山江里, 小島克之：画質維持と被ばく線量低減を目的としたウェーブレット係数しきい値処理の一提案, 医用画像情報学会雑誌, 28, 2, 51-56, 2011.6.
5. Kazuo Tanaka, Kiyofumi Katayama and Masahiro Tanaka : “Optical field characteristics of nanofocusing by conical metal-coated dielectric probe” OPTICS EXPRESS No.21 Vol.19, 10 Oct. 21028-21037, 2011.
6. 森山一郎：チェーン小売業の成長とチャネル戦略の変化. 浜松大学研究論集24(1), 39-45, 2011.
7. Kazuo Tanaka, Kiyofumi Katayama and Masahiro Tanaka : “Generation of nanosize 3D dark spots with a light shell by plasmonic conical probe with metallic nano-rod” Appl. Phys. B. Vol.109, 27-32, No. 1, 2012.
8. 細川壯平：Winny事件と刑法的評価.日本科学学会研究論叢第17号, 53-65, 2012.3.
9. 大本道央：科学英語論文の Do's & Don'ts. 浜松大学研究論集25 (1), 57-69, 2012.12.
10. 児玉彦一郎：騎士・宮廷時代の大学に関する一考察（研究ノート）, 浜松大学研究論集25 (1), 91-100, 2012.12.
11. 森山一郎：顧客ポートフォリオ論の展開と課題. 浜松大学研究論集25(1), 31-43, 2012.12.

3）報告

1. 富澤豊：「企画書の書き方」, 月刊研究開発リーダー, Vol.7, No.10, p.45, 2011年1月.
2. 向井和男： クラウドの視点, 経営情報学会次世代システム研究部会次世代システム研究部会活動報告書, 2011年2月.
3. 渡部晴之, 蔡篤儀, 李鎔範, 松山江里, 小島克之：複合型Wavelet変換を用いたディジタル医用X線画像の画質改善, 電子情報通信学会技術研究報告, 111, 389, 269-274, 2012-1.

4. Eri Matsuyama, Du-Yih Tsai, Yongbum Lee, Haruyuki Watanabe and Katsuyuki Kojima： A Method for Mammographic Image Denoising Based on Hierarchical Correlations of the Coefficients of Wavelets Transforms, IFMBE Proceedings World Congress on Medical Physics and Biomedical Engineering, Beijing, 2012, 872-875, 2012-5.
5. Haruyuki Watanabe, Du-Yih Tsai, Yongbum Lee, Eri Matsuyama and Katsuyuki Kojima：Efficacy of Combined Wavelet Shrinkage Method for Low-Dose and High-Quality Digital Radiography, IFMBE Proceedings World Congress on Medical Physics and Biomedical Engineering, Beijing, 2012, 888-891, 2012-5.
6. 森山一郎：製販協働とチャネル管理の課題－複数顧客関係管理の視点から．日本商業学会第62回全国研究大会報告論集，2012年5月．
7. Haruyuki Watanabe, Du-Yih Tsai, Yongbum Lee, Eri Matsuyama and Katsuyuki Kojima：Improvement of Image Quality and Radiation Dose Reduction in Digital Radiography Using an Integrated Wavelet-Transform-Based Method, Program of IMEKO World Congress Metrology for Green Growth, Busan, 2012, (p.1-4), 2012-9.
8. Eri Matsuyama, Du-Yih Tsai, Yongbum Lee, Haruyuki Watanabe, Masaki Tsurumaki and Katsuyuki Kojima：Improving Image Quality of Digital Mammographic Images Using an Undecimated Discrete Wavelet Transform Method: Performance Assessment, ：Program of ＸＸ IMEKO World Congress Metrology for Green Growth, Busan, 2012, (p.1-4), 2012-9.

4）学会発表

1. 中村正義：拘束系としての非可換量子力学の正準構造．日本物理学会第68回年次大会， 2013年3月29日（講演番号:29pRA-11），広島.
2. Kazuo Tanaka, Kiyofumi Katayama and Masahiro Tanaka: “Nanofocused optical field created by the metal coating dielectric conical probe,” The 8th APNFO, McLaren Vale, SA, Australia, 2011.
3. 細川壯平: Winny事件と刑法的評価,日本産業科学学会中部部会,2011年6月,名古屋学院大学さかえサテライト.
4. 向井和男：クラウド導入の視点，経営情報学会2011年春季全国研究発表大会，2011年6月.
5. 渡部晴之，蔡篤儀，李鎔範，松山江里，小島克之： Wivelet係数変換曲線とBayesShrink法に基づくディジタル医用X線画像の画質改善と被ばく線量低減，医用画像情報学会MII平成23年度秋季(第161回)大会，2011年10月，徳島.
6. 富澤豊:「生活と商品の研究～ロングセラー商品開発のヒント」日本市場創造学会設立準備研究会,2011年12月,明治大学.
7. 細川壯平: 情報公開法制度と個人情報保護法制度，日本産業科学学会中部部会，名古屋学院大学名古屋キャンパス白鳥学舎，2012年3月.
8. 向井和男：ビッグデータ 分析手法と事例，経営情報学会・ISM研究部会，2012年3月.
9. 森山一郎: 製販協働とチャネル管理の課題－複数顧客関係管理の視点から．日本商業学会第62回全国研究大会，2012年5月．北海商科大学.
10. 細川壯平： Winny事件と刑法的評価，日本産業科学学会第17回全国大会，愛知学院大学日進校舎，2012年，7月.
11. 富澤豊：「生活と商品の研究～ロングセラー商品になる要素の検討」日本市場創造学会設立準備研究会，2012 年11月，明治大学.
12. 大本道央：英語論文の Do's and Don'ts. 日本実用英語学会 第37回年次大会. 2012年9月. 青森公立大学.

５）学会以外の講演等

1. 森山一郎：2011 年流通業の展望．小売店と生活者の対話研究会，2011 年 1 月．第一ホテル東京会議室.
2. 難波麻美：小澤諒子（Vl），沖左知江（Vc），奥田ゼミ演奏発表　ベートーヴェンピアノトリオ「大公」，2011 年 4 月，島田市ゆうホール.
3. 難波麻美：ウィーン国立音楽大学夏期講習会修了コンサート出演，バッハ・半音階的幻想曲とフーガ，2011 年 8 月，ウィーン国立音楽大学リストザール.
4. 森山一郎：　マーケティングの思考法．静岡文化芸術大学アーツ・マーケティング研究会，2012 年 1 月．静岡文化芸術大学.
5. 細川壯平，：個人情報保護法制度と情報公開法制度，浜松医科大学教職員個人情報保護法研修会，2012 年 2 月，浜松医科大学.
6. 難波麻美，窪田由佳子：ベートーヴェン弦楽四重奏 Op. 135　4 手連弾，2012 年 3 月，ゆうホール.
7. 難波麻美：創立 20 周年　気のいい羊達記念コンサート出演，ショパン・バラード一番，2012 年 3 月，静岡葵タワー.
8. 難波麻美，市川清士（Ob），野島慶介（Fg），塚本陽子（Cl），伊藤由美（Fl），村瀬めぐみ（Hn）：公民館主催なのはなコンサート，ピアノ六重奏曲他，2012 年 3 月，県居公民館.
9. 大本道央，篠田義明，渡辺洋一，山田茂，金徳多恵子：第 12 回 BTCI セミナー ～基礎から学ぶテクニカルライティング～」（一般社会人・学生対象のセミナーの講師）．早稲田大学ﾋﾞｼﾞﾈｽ・ﾃｸﾆｶﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ研究所（BTCI）．2012 年 5 月．早稲田大学.
10. 難波麻美，田原祝子：ベートーヴェン交響曲第九番 Op. 125　4 手連弾，2012 年７月，奥田ハウス.
11. 難波るみ，クラウディウスレペティ，難波麻美：粋月樓コンサート出演，メンデルスゾーン・ピアノトリオ第 1 番他，2012 年 7 月，浜松西区粋月楼.
12. 向井和男：ナレッジ創造/共有/商品化とそれを育む環境（第 18 回サステナブル新事業化開発セミナー），2012 年 11 月，サステナブル・イノベーションズ株式会社.
13. 難波麻美：ミヒャエル・ロイシュナー教授受講生コンサート出演，リスト・エステ荘の噴水，愛の夢，2012 年 12 月，東京銀座ヤマハホール.

サービスと経営学科

1）著書

1. Zhou, Albert R.: Healthy Living（健康と生活）. 三恵社, 2011. 単著
2. Zhou, Albert R.: Enriching Life（生活の豊かさを求めて）. 三恵社, 2011. 単著
3. 坂本勝信：日本語能力試験レベルアップトレーニング文法N1. アルク, 2012. 6. 単著
4. 坂本勝信：日本語能力試験レベルアップトレーニング文法N2. アルク, 2012. 6. 単著
5. 坂本勝信・吉原こずえ：日本語能力試験レベルアップトレーニング聴解N1. アルク, 2012. 共著
6. 坂本勝信・吉原こずえ：日本語能力試験レベルアップトレーニング聴解N2. アルク, 2012. 共著
7. 高橋　衛：地域創造研究叢書, No.16. 愛知東邦大学地域創造研究所編, 第4章　現代日本の経営学教育の現状と課題, pp.75-89, 唯学書房, 2012年. 分担著
8. 高橋　衛：多国籍企業の経営戦略. 佐久間信夫・黒川文子編, 第2章, 第3章, 白桃書房, 2013年（印刷中）. 分担著
9. 中村義彦・田代景子：簿記の基本技法, 三恵社, 2011. 共著
10. 田代景子：原価計算ガイダンス, 柳田仁編著, pp.165-176, 中央経済社, 2012. 分担著(印刷中)
11. 玉木栄一：航空事業論テキスト　入門航空事業論, 航空・観光教育研究学会, 2012, 手島廉幸, 井手口哲生他, pp105～126, 分担著
12. 中津川智美：不満を言わないのはスキルフルか, スキルレスか. 吉田俊和, 橋本剛, 小川一美編,『対人関係の心理学』p117-119, ナカニシヤ出版, 2012.
13. 馬場純平：ネイティブ・アプローチの英語速読バイブル Vol.1 （電子書籍）. 英語園, 2011. 単著
14. 馬場純平：ネイティブ・アプローチの英語速読バイブル Vol. 2 （電子書籍）. 英語園, 2011. 単著
15. 馬場純平：大学受験Aimシリーズ①：大学入試英語頻出問題総演習Solution. 成美堂出版, 2013. 単著
16. 榎田徹朗：大学受験Aimシリーズ②：大学受験頻出英単語集Multi-Scope, 馬場純平 監修. 成美堂出版, 2013.

2）原著論文

1. Zhou, Albert R.: East Asian Educational Discourse: A Reading of the Analects. Academic Journal of Hamamatsu University. 24 (1): 73-84, 2011.
2. Zhou, Albert R.: Transcending Linguistic and Cultural Differences: Multiculturalism and Canadian Identity. Academic Journal of Hamamatsu University. 25, 2012.
3. 小野澤隆: 「報徳思想と英学ー岡田良一郎と冀北学舎をめぐってー」,『英語学・英語教育研究』, 第 17 巻 31 号:141-152, 2012.
4. 小野澤隆: 「R. C. アームストロングの JUST BEFORE THE DAWN 論考」, 『浜松大学研究論集』, 第 25 巻第 1 号:1-12, 2012.
5. 小島康史:好感を持つクリエイティブCM:「白戸家」を例として. 浜松大学研究論集第24巻第1号:47-54, 2011.
6. 康鳳麗・森脇健夫・坂本勝信：熟練日本語教師の力量内容とその形成ーライフヒストリー的アプローチによる日中の日本語教師の授業スタイルの形成研究ー. 三重大学教育学部研究紀要63：267-273, 2012.
7. 坂本勝信・康鳳麗・森脇健夫：日本人児童の文章における視座形成の実態. 浜松大学研究紀要. 25 (1)：印刷中
8. 田代景子：顧客価値創造の原価計算, 浜松大学研究論集24(1):31-37, 2011

9. 中津川智美： 対人葛藤時のコミュニケーション方略. 浜松大学研究論集 24 (1) : 85-92, 2011.
10. 中津川智美, 吉田 琢哉, 高井次郎：対人葛藤における建設的潜在化方略選好の規定因 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要（心理発達科学）58：47-55, 2012.
11. 林 兵磨：ＮＰＯにおける寄付の会計処理に関する検討, 浜松大学研究論集, 第25巻１号, 2012.

３）報告

1. 玉木栄一:静岡県3大学「共同公開講座 富士山静岡空港開港で新時代を迎えた静岡県を考える」記録集, 大学ネットワーク静岡, pp35-132, 2012.

４）学会発表

1. 小野澤隆:豪農の起業化と英学の影響ー平野又十郎の場合ー. 日本英学史学会第49回全国大会, 2012.10, 和歌山大学.
2. 康鳳麗・森脇健夫・坂本勝信：熟練日本語教師の力量形成と「二重の応答性」に関する研究ーW 氏と T 氏の事例にそくして. 中部教育学会第60回大会口頭発表, 2011. 6, 静岡大学
3. 康鳳麗・森脇健夫・坂本勝信：熟練日本語教師の力量内容とその形成―ライフヒストリー的アプローチによる日中の日本語教師の授業スタイルの形成研究―. 世界日本語教育研究大会ポスター発表, 2011. 8, 中国天津外国語大学
4. 坂本勝信・康鳳麗・森脇健夫：中国人日本語学習者の物語描写における視座形成の実態 ―中国で学ぶ学習者を対象とした縦断的・横断的調査を通して―. 日本語教育学会研究集会第1回口頭発表, 2012. 6, 金城学院大学
5. 康鳳麗・森脇健夫・坂本勝信：ライフヒストリーアプローチによる日本語教師の力量形成研究の意義と課題―個別事例研究から熟練教師の熟練性の研究へ―. 日本語教育学会研究集会第1回口頭発表, 2012. 6, 金城学院大学
6. 坂本勝信・吉原こずえ：日本語能力試験における聴解問題の解法のポイントを探る―対策本の「課題理解」の分析を通して―. 日本語教育国際研究大会ポスター発表, 2012. 8, 名古屋大学
7. 砂子岳彦:存在と量子化. 応用哲学会. 2012.4. 千葉大学.
8. 高橋 衛:企業成長にともなう資本の固定化と企業金融. 証券経済学会第76回全国大会自由論題報告, 2011. 11. 京都産業大学.
9. 玉木栄一：大学における観光学教育の現状, 航空・観光学研究学会, 2012.7, 航空会館.
10. 中津川智美, 高井次郎：対人コンピテンスと葛藤潜在化―顕在化方略の関連性. 日本社会心理学会第52回大会, 2011.
11. Satomi Nakatsugawa: “Explicit” versus “Non-explicit” Interpersonal Conflict Management Strategies of Japanese. International Communication Association (Phoenix, AZ), 2012.
12. 福田鈴子, 砂子岳彦「ホリスティックな異文化間コミュニケーション教育 - ホリスティックな視点とその応用」異文化間教育学会, 2012.6, 立命館アジア太平洋大学.

５）外部資金獲得状況

1. 坂本勝信（研究分担者）科学研究費補助金, 基盤研究（C）, 平成24年度. ライフヒストリー的アプローチによる熟練教師の「熟練性」及びその形成過程の研究. 500千円.

6）学会以外の講演等

1. Toshiaki Akinaga: Economics Education with Experiments, The first Penang-Kyoto Workshop “Ethics and Experimental Studies”, 2011年10月1日, 京都産業大学
2. 坂本勝信：問題に取り組みながら「使える」喜びを生む日本語能力試験対策. 日本語能力試験対策研修会, 2012. 10. 20, 凡人社.
3. 坂本勝信：問題に取り組みながら「使える」喜びを生む日本語能力試験対策. 地域で活動する日本語ボランティアのための研修会 in 岡山, 2012. 11. 17, 岡山コンベンションセンター.
4. 柴崎孝夫：社会的・経済的環境の変化に応じたキャリア教育, 平成24年度教育免許状更新講習必修講習.
5. 玉木栄一：日本のインバウンド観光の現状, 静岡県・大学ネットワーク主催　静岡県3大学「共同公開講座　富士山静岡空港　開港で新時代を迎えた静岡県の観光を考える」, 2011年11月24日, 浜松アクトシティコンベンションセンター.
6. 玉木栄一：観光による地域開発, 地域中小企業懇話会「十和会」, 2012年7月11日, 浜松市南部公民館.
7. 馬場純平：都城泉ヶ丘高校春の学習会, 2011年3月5-6日, 宮崎県立都城泉ヶ丘高校.
8. 馬場純平：麗澤瑞浪高校英語学習会. 2011年8月18日, 岐阜県麗澤瑞浪高校.
9. 馬場純平：小学校英語教育研究会. 2011年11月8日, 豊橋市立多米小学校.
10. 馬場純平：高校英語教育研究会. 2011年12月8日, 三重県上野高校.
11. 馬場純平：センター試験英語研究会：2012年12月15日, 福岡県城東高校.
12. 長谷川真知子：好感の持たれる表現. 磐田西高等学校講演（300名対象）2011年1月13日, 磐田西高等学校.
13. 長谷川真知子：マナーを学ぶ. 湖西高等学校講演（350名対象), 2011年6月8日, 湖西高等学校.
14. 長谷川真知子：ホスピタリティの実践:常葉静岡リハビリテーション専門学校講演, 2011年6月24日, 常葉静岡リハビリテーション専門学校
15. 長谷川真知子：好感をもたれる表現とは：常葉大学教職員研修会講演2011年9月1日, 常葉大学.
16. 長谷川真知子：マナーは思いやる心の表現：浜松開成中学校講演（全生徒対象), 2011年9月28日, 浜松開成中学.
17. 長谷川真知子：表現力を身につける. 浜松工業高校講演, 2011年11月5日, 浜松工業高校.
18. 長谷川真知子：医療現場でのホスピタリティ：石垣内科医院講演（看護師, 介護士100名対象), 2012年5月10日, 石垣内科医院.
19. 長谷川真知子：おもてなしの表現. 浜松開成地区青少年健全育成会（教師, 市民300名), 2012年6月9日, 浜松.
20. 長谷川真知子：医療現場でのホスピタリティ. 常葉静岡リハビリテーション専門学校講演, 2012年6月21日, 常葉静岡リハビリテーション専門学校.
21. 長谷川真知子：好感の持たれる表現について. 磐田北高等学校講演（350名), 2012年7月19日. 磐田北高等学校.

7）その他

a)テキスト等

1. 小野澤隆: 『大学基礎英語』(テキスト)，東進印刷，2012 年 3 月.
2. 小野澤隆: 『大学教養英語』(テキスト)，東進印刷，2013 年 3 月.
3. 小野澤隆:「心の目」『道標』, 浜松市細江町仏教会，2012 年 7 月.

b)マスコミ発表

1. 長谷川真知子：中日新聞，開成中学校講演．2011 年 9 月 29 日.
2. 秋永利明：中日新聞，自由貿易　枠組妥当か，2012 年 12 月 14 日朝刊.
3. ニーウェイ: 浜松 FM 放送，「アミハマファーミリ（中国の社会と文化を紹介する番組)」，FM ハロー76.1，2012.

c)映像作品発表

1. 小島康史(映像制作統括)：幸田露伴の五重塔．遊行舎, 2011. 1.
2. 小島康史(監督)：ダウン症 金澤翔子 いのちと書. 浄土宗大本山増上寺．2011. 2. 24.
3. 小島康史(監督)：金澤翔子 希望光. 臨済宗大本山建長寺. 2011. 5. 2-5. 5.
4. 小島康史(監督)：柳田泰山 楷書千字文. 上野の森美術館．泰書会, 2011. 8. 26-8. 30.
5. 小島康史(監督)：翔子 書の世界. 華厳宗大本山東大寺．2011. 12. 14-12. 20.
6. 小島康史(映像制作統括)：生活発表会. 葵ヶ丘保育園, 2011. 12. 25.
7. 小島康史(監督):瞼の紙芝居節. 昭和の紙芝居～戦中・戦後の娯楽と教育．国立昭和館, 3 階特別企画展会場. 2012. 3. 17. -5. 13.
8. 小島康史(監督)：金澤翔子映像作品集. 銀座三越　8 階ギャラリー. 2012. 5. 16-5. 22.
9. 小島康史(映像制作統括)：教えます，振り込み詐欺の手口！ みんなこうしてだまされる. HUVOC, 2012. 10. 18.
10. 小島康史(監督)：柳田泰山の書. 松山三越　1 階アトリウムコート. 2012. 10. 30-11. 5.

d)テレビ放映

1. 小島康史(映像制作統括)：ファーマーズマーケットが守る食と農業．浜松ケーブルテレビ, 2011. 6. 1-6. 30.
2. 小島康史(映像制作統括)：. 改革が原動力！ 天竜浜名湖鉄道．浜松ケーブルテレビ, 2011. 9. 1-9. 30.
3. 小島康史(映像制作統括)：おもてなし文化を発信！ 舘山寺温泉．浜松ケーブルテレビ, 2011. 12. 1-12. 31.
4. 小島康史(映像制作統括)：浜松のアニメイベントのいま．浜松ケーブルテレビ, 2012. 3. 1-3. 31.

健康プロデュース学部

健康栄養学科

1）著書

1. 加藤明彦，石田淳子，小田巻眞理：変革する透析医学 6 章 MIA 症候群，秋澤忠男監修，衣笠えり子，小岩文彦，緒方浩顕，本田幸一編集，p220-225，医薬ジャーナル社，2012，分担著.
2. 金谷節子, 坂井真奈美：嚥下食レシピ 125 第 3 刷，江頭文江, 栢下淳編著，医歯薬出版，2011.
3. 金谷節子 監修:幸せ味わう高齢者食レシピ集, 食品産業新聞社，2012.
4. 金谷節子 監修:今ある放射能を消す食事, 主婦と生活社，2011.
5. 金谷節子 編著:バッドサイドから在宅で使える嚥下食のすべて 第 1 版 3 刷，医歯薬出版社，2012
6. 川上栄子：調理実習ノート～基礎から応用まで～，大進堂出版， 2011．9，単著.
7. 兒山左弓　他 16 名：個別ケア実践マニュアル　ユニットケアで暮らしをつくる，秋葉都子編著， pp82-90, 中央法規出版，2011，分担著.
8. 兒山左弓　他 4 名：食事のケアの悩み・疑問解決 Q&A おはよう 21（11），兒山左弓監修，pp11-27，日本法規出版, 2011，分担著.
9. 小山ゆう，清水正則，杉山千歳，他：管理栄養士・栄養士必携　健康・栄養学用語辞典．大森正英 編（代），中央法規，2012.2，分担著
10. 小山ゆう　他：食物と栄養学基礎シリーズ 12「給食経営管理論」, 吉田勉監修, 名倉秀子編, pp51-60, pp161-170, 学文社，2013 年，分担著.
11. 菊池慶子，倉田貞美，近藤今子，柴田陽介，呉あさみ，千原泉，坪井聡，中村美詠子，西山慶子，長谷川拓也，原岡智子，水田明子，安田孝子，渡辺晃紀：「保健指導ノート」2012 資料編　公衆衛生の現状，社団法人日本家族計画協会公衆衛生委員会監修，p5-1-p5-8、社団法人日本家族計画協会，2011.12.
12. 諏訪さゆり，中村丁次，藤田伸輔，尾岸恵三子，大塚眞理子，長谷川真美，吉内佐和子，西郊靖子，伊藤美穂子，柏下淳，小切間美保，近藤今子，弘津公子，清水紗弥香，荒木暁子，青木ゆかり，谷本真理子，工藤美香，三浦美奈子，石橋みゆき，島村敦子，松永美根子，桑田昭子，大塚弥生，会田薫子，佐伯恭子，林静子：「食べる」ことを支えるケアとＩＰＷ，p71-p77，2012.5.
13. 倉田貞美，近藤今子，呉あさみ，千原泉，筒井秀代，坪井聡，中村美詠子，西山慶子，原岡智子，水田明子，渡辺晃紀：「保健指導ノート」2013 資料編　公衆衛生の現状，社団法人日本家族計画協会公衆衛生委員会　監修，p5-1-p5-8，2012.12.
14. 白木まさ子 他：健康・栄養科学シリーズ「公衆栄養学」, 田中平三、徳留信寛、伊達ちぐさ編，pp192-197，南江堂，2012．分担著
15. 寺島健彦:栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学, 田地陽一編, pp138-151，羊土社, 2012, 分担著.
16. 寺島健彦:栄養科学イラストレイテッド［演習版］基礎栄養学ノート, 田地陽一編, pp127-137，羊土社, 2012, 分担著.
17. 三浦綾子, 中誠一：機能性スポーツフードの開発、矢沢一良編, pp147-152，シーエムシー出版，2013，分担著.

2）原著論文

1. 池谷昌枝,石田淳子,鈴木知子, 金谷節子:円背患者における身長計測法の検討, 健康プロデュース雑誌6(1):41 - 48,2012.
2. 池谷昌枝,鈴木知子, 金谷節子: n-6 及び n-3 系多価不飽和脂肪酸の摂取比率と量についての検討 - 必須脂肪酸を適正に摂取するための食事の提案 - , 健康プロデュース雑誌7(1) : (印刷中) , 2013.
3. Yoshida T, Kumagai H, Suzuki A, Kobayashi N, Ohkawa S, Odamaki M, Kohsaka T, Yamamoto T, Ikegaya N.: Relaxin ameliorates salt-sensitive hypertension and renal fibrosis. Nephrol Dial Transplant.27(6):2190-7, 2012.
4. 川上栄子: 米粉及び米加工品を添加したパンの特性と食味評価, 健康プロデュース雑誌6 (1) : 81-86, 2012.
5. 木村佐枝子, 小山ゆう : 大学の社会貢献活動としての実践的授業展開と課外活動の教育的意義ー静岡県ことばと心を育む会「夏休みひまわり講座」ー, 健康プロデュース雑誌6 (1) : 105-115, 2012.
6. 木村佐枝子,櫻井博紀,小山ゆう:東日本大震災における大学生のボランティア活動ー浜松大学HUVOC隊の活動ー, 健康プロデュース雑誌6(1) : 117-126, 2012
7. 小山ゆう, 金谷節子 : 給食経営管理実習におけるスチコン調理の有用性について, 健康プロデュース雑誌7(1) : (印刷中), 2013.
8. Imako Kondo, Toshiyuki Ojima, Mieko Nakamura, Shinya Hayasaka, Atsushi Hozawa, Shigeyuki Saitoh, Hirofumi Ohnishi, Hiroshi Akasaka, Takehito Hayakawa, Yoshitaka Murakami, Nagako Okuda, Katsuyuki Miura, Akira Okayama, and Hirotsugu Ueshima, for the NIPPON DATA80 Research Group: Consumption of Dairy Products and Death From Cardiovascular Disease in the Japanese General Population: The NIPPON DATA80. Journal of Epidemiology. 23(1) : 47-54. 2013.
9. 小嶋汐美,白木まさ子:女子大学生における食生活と生活習慣に関する研究ー主観的体型評価区分による検討ー, 健康プロデュース雑誌6(1) : 73-79, 2012
10. CHIKAKO SUGIURA , SHIHO NISHIMATSU , TATSUYA MORIYAMA , SAYAKA OZASA , TERUO KAWADA , KAZUTOSHI SAYAMA, Catechins and caffeine inhibit fat accumulation in mice through the improvement of hepatic lipid metabolism, Journal of Obesity, 10 pages, 2012.
11. 杉浦千佳子:マウスの肝臓および脂肪細胞の脂質代謝に対するカテキンおよびカフェインの影響に関する研究,学位論文, 静岡大学, 2012.6.
12. Okuyama S, Tashiro K, Lam NV, Hatakeyama T, Terashima T, Yokogoshi H. : Effect of the edible mushroom Mycoleptodonoides aitchisonii on transient global ischemia-induced monoamine metabolism changes in rat cerebral cortex., J Med Food. 15(1):96-99, 2012.
13. 原 信芳 : パーペン、シュライヒャー内閣の雇用創出計画, 慶應大学三田史学会編『史学』第81巻第1・2号, 169ー189, 2012.3.
14. 原 信芳 : ナチス・ドイツ軍事費の信用リスク移転, 軍事史学会編『軍事史学』第47巻第4号, 39ー53, 2012.3.
15. Ni Hou, Hideo Mogami, Chisato Kubota-Murata, Meng Sun, Toshiyuki Takeuchi1, SeijiTorii Preferential Release of Newly Synthesized Insulin Assessed by a Multi-Label Reporter System UsingPancreatic ・-Cell Line MIN6, PLOSone 7: e4792, 2012
16. Tomasz Brzoska, Yuko Suzuki, Hideo Mogami, Hideto Sano, and Tetsumei Urano: Binding of thrombin-activated platelets to a fibrin scaffold through $\alpha_{IIb}\beta_3$ evokes phosphatidylserine exposure on their cell surface. PLOSone 8: e 55466, 2013.

17. 森下紗帆, 高瀬幸子： 幼若および成熟ラットの糖質エネルギー比率と窒素出納, 栄養学雑誌 69(6)：312-317, 2011.

3）報告

1. 川上栄子：調理文化の地域性と調理科学報告書～行事食・儀礼食～, 平成 21 年度～23 年度日本調理科学会特別研究委員会, 日本調理科学会別冊, 74, 2012. 2.

4）学会発表

a)特別講演

1. 清水正則：葉緑体遺伝子発現の光スイッチ. 第１４回植物オルガネラワークショップ, 2012.3, 京都.
2. Kobayashi H. and Shimizu M：Light-regulatd adjustment of photosystem stoichiometry via phosphorylation status of sigma factor in chloroplast. Society for Experimental Biology (SEB) Annual Main Meeting, June 2012, Salzburg.

b)シンポジウム

1. 小田巻眞理, 熊谷裕通, 田北貴子、加藤明彦:血液透析患者におけるサルコペニアの成因、第 57 回日本透析医学会学術集会・総会, 2012.6, 札幌.
2. 小田巻眞理, 加藤明彦:血液透析患者の低栄養と過栄養、第 57 回日本透析医学会学術集会・総会, 2012.6, 札幌.
3. 小林裕和, 清水正則, 澤崎達也：タンパク質合成系としての優位性とその活用 ―― σ 因子キナーゼおよび bHLH 標的 DNA の探索. 第 54 回日本植物生理学会年会, 2012.3, 岡山.

c)一般演題

1. 池谷昌枝, 石田淳子, 金谷節子, 鈴木知子：栄養アセスメントにおける身長計測方法の検討, 第 27 回日本静脈経腸栄養学会, 2012.2, 神戸.
2. 内山秀和：口腔内細菌構成に及ぼす環境要因の検討, 第 71 回日本公衆衛生学会総会, 2012.10, 山口.
3. 石田淳子, 石黒伽奈, 水谷あさき, 長田あづみ, 寺島健彦, 小田巻眞理, 加藤明彦：食品中のリン含有量の分析, 第 57 回日本透析医学会学術集会・総会, 2012.6, 札幌
4. 新宅幸憲, 渡辺喜彦, 小楠和典, 和田匡史, 臼井永男：高齢者の体力因子と立位姿勢の安定性について, 第 66 回日本体力医学会大会, 2011.9, 山口県.
5. 新宅幸憲, 大桑哲男, 渋江裕子, 西山清子, 藤永博, 小楠和典, 臼井永男：垂直腕立て支持姿勢の身体動揺と立位姿勢における重心動揺について－空手のこどもに着目して－, 日本体育学会第 63 大会, 2012.8, 東海大学.
6. 渡辺喜彦, 新宅幸憲, 小楠和典, 藤永博, 臼井永男：高齢者の体力因子と立位姿勢の安定性について(2), 第 67 回日本体力医学会大会, 2012.9, 岐阜県
7. 川上栄子, 小嶋汐美：静岡県西部地域の食文化に関する研究～大学生における行事食の実態調査～, 日本調理科学会平成 23 年度大会, 2011. 8, 高崎.
8. 小嶋汐美, 川上栄子：静岡県西部地域の食文化に関する研究～浜松地域における行事食～, 日本調理科学会平成 23 年度大会, 2011. 8, 高崎.

9. 川上栄子, 杉山明日美, 森下愛子 : 管理栄養士養成課程における学生の食習慣に関する意識と食物摂取調査を経年的にみた教育効果, 第 18 回日本未病システム学会, 2011. 11, 名古屋.
10. 杉山明日美, 森下愛子, 川上栄子 : 管理栄養士養成課程学生の１年生と４年生の食習慣に関する意識と食物摂取調査比較からの専門教育の効果, 第 18 回日本未病システム学会, 2011. 11, 名古屋.
11. 兒山左弓, 川上栄子, 森下紗帆 : 臨地実習の教育効果向上への取り組みとして行なった「幼保育園児の食生活アンケート」結果報告, 第 59 回日本栄養改善学会, 2012. 9, 名古屋.
12. 小山ゆう, 山田雅敏:大学女子バスケットボール選手の栄養摂取状況, 第 58 回日本栄養改善学会学術総会, 2011. 9, 広島.
13. 小山ゆう : 給食経営管理実習におけるスチームコンベクションオーブン使用の有用性について, 第 7 回日本給食経営管理学会学術総会, 2011. 11, 東京.
14. 小山ゆう : 浜松大学女子バスケットボール選手における栄養摂取状況, 第１回日本健康運動指導士会学術集会静岡大会, 2012. 3, 浜松.
15. 小山ゆう :学生実習におけるスチームコンベクションオーブン使用の有用性について. 第 59 回日本栄養改善学会, 2012. 9, 名古屋.
16. 千葉弘樹, 小山ゆう, 三浦綾子 : 大学女子バスケットボール選手における栄養素摂取状況の改善が身体組成に及ぼす影響について, 第 59 回日本栄養改善学会, 2012. 9, 名古屋.
17. 三浦綾子, 小山ゆう : 運動志向と食意識・食生活状況の関連. 第 59 回日本栄養改善学会, 2012. 9, 名古屋.
18. 近藤今子, 小嶋汐美, 山田佐登子, 中村美詠子, 尾島俊之 : 高校生の朝食共食の状況と食生活の各種関連因子, 第 58 回日本栄養改善学会学術総会, 2011. 9, 広島市.
19. 小嶋汐美, 近藤今子 : 磐田市の独自の栄養教育媒体「ミニやごちゃん」を使った食育の効果について, 第 58 回日本栄養改善学会学術総会, 2011. 9, 広島市.
20. 中村美詠子, 白木まさ子, 亀山良子, 近藤今子, 尾島俊之, 青木伸雄 : 小中学生の食欲に関連する心理的要因, 第 58 回日本栄養改善学会学術総会, 2011. 9, 広島市.
21. 近藤今子, 中村美詠子, 村田千代栄, 野田龍也, 徳本史朗, 尾島俊之 : 高校生の家庭における調理経験と食行動や食に関する知識・意識との関連, 第 69 回日本公衆衛生学会総会, 2011. 10, 秋田市.
22. 早坂信哉, 後藤康彰, 柴田陽介, 野田龍也, 村田千代栄, 徳本史郎, 長谷川拓也, 安田孝子, 菊池慶子, 山田友世, 原岡智子, 近藤今子, 上田真二, 浅川仁, 伊東千絵子, 中村秀子, 水田明子, 尾島俊之 : 乳洋国関連した体調不良/事故の発生頻度, 第 22 回日本疫学会学術総会, 2012. 1, 東京.
23. 小嶋汐美、近藤今子 : 小・中学校の教員における食育への関心と食行動および食知識との関連, 第 58 回東海公衆衛生学会学術大会, 2012. 7, 津市.
24. 近藤今子, 小嶋汐美, 山田佐登子, 中村美詠子, 尾島俊之 : 朝食欠食習慣と体重および生活習慣との関連, 第５９回日本栄養改善学会学術総会, 2012. 9, 名古屋市.
25. 小嶋汐美, 近藤今子 : 中学生における朝食での野菜摂取と市独自の栄養教育資材や食生活行動および知識との関連, 第５９回日本栄養改善学会学術総会, 2012. 9, 名古屋市
26. 中村美詠子, 白木まさ子, 亀山良子, 近藤今子, 尾島俊之, 青木伸雄 : 小中学生におけるいらいら気分と食習慣との関連, 第５９回日本栄養改善学会学術総会, 2012. 9, 名古屋市.

27. 近藤今子, 中村美詠子, 村田千代栄, 野田龍也, 筒井秀代, 早坂信哉, 尾島俊之：朝食欠食習慣と特定健診の各種健診項目等との関連、第70回日本公衆衛生学会総会、2012.10, 山口市.
28. 由田克士, 荒井祐介, 近藤今子：地域における栄養モニタリング体制の状況と市町村・保健所栄養士の連携に関わる検討、第70回日本公衆衛生学会総会, 2012.10, 山口市.
29. 末永美雪, 小嶋汐美, 植田知里：静岡県の学校給食における食育推進の活動状況と意識について、第7回日本栄養改善学会北陸支部学術総会, 2012.2, 金沢市.
30. 白木まさ子, 竹下登紀子：保育園児の生活状況と保護者の食育に対する意識調査, 第58回日本栄養改善学会学術総会, 2011. 9. 広島市.
31. 山瀬寿子, 清本貴子, 白木まさ子：再加熱カート導入による効果検証について, 第58回日本栄養改善学会学術総会, 2011. 9. 広島市.
32. 白木まさ子, 亀山良子, 竹下登紀子：保護者の食育に対する意識と保育園児の生活状況との関連について, 第59回日本栄養改善学会学術総会, 2012. 9. 名古屋市.
33. 亀山良子, 白木まさ子, 竹内茜, 照井眞紀子：健常者を対象としたメニューのマーチャンダイジング・女子大学生を対象にした食行動分析と健康メニューの開発, 第59回日本栄養改善学会学術総会, 2012. 9. 名古屋市.
34. 高瀬幸子, カムルン・アクタル, 清水正則, 寺島健彦：β-カロテン解裂酵素とビタミンA代謝関連遺伝子発現への食事蛋白質の量と質の影響. 日本ビタミン学会第63回大会、2011. 6, 広島.
35. Chuenwarin P., Kato A., Shimizu M., Kobayashi Y., Katsumata M., and Kobayashi K. Contribution of plants to human health and longevity: Regulation in biogenesis of the chloroplast, an intracellular compartment, for production of foods and nutraceutical compounds. The 4th International Conference on Health and Longevity Sciences (ICHALS). Oct. 2011, Shizuoka.
36. Kobayashi K., Yamamoto S., Niwa Y., Sakakibara H., and Shimizu M. Biofortification of plants by engineering with all plant-derived genes. The 4th International Conference on Health and Longevity Sciences (ICHALS). Oct. 2011, Shizuoka.
37. 高瀬幸子, アクタル カムルン, 清水正則, 寺島健彦：β-カロテン解裂酵素とビタミンA代謝関連遺伝子発現への食事蛋白質の量と質の影響, 日本ビタミン学会第63回大会, 2011.6, 広島
38. 高瀬幸子, 清水正則, 駿河和仁：ビタミンA欠乏ラットのβ カロテン代謝関連酵素の遺伝子発現に及ぼす食餌タンパク質の量と質の影響. 第22回日本レチノイド研究会学術集会, 2011.11, 東京.
39. 島崎あづみ, 清水正則, 勝又政和, 小林裕和：遅延蛍光による非破壊的光合成評価法のシロイヌナズナへの活用. 第53回 日本植物生理学会年会, 2012.3, 京都.
40. 山本峻資, 清水正則, 浅尾浩史, 小林裕和：全て植物由来の遺伝子を用いたフラボノイド類強化レタスの作出. 日本農芸化学会2012年度大会, 2012.3, 京都.
41. 寺島健彦, kamrun Nahar Akter, 清水正則, 杉山千歳, 高瀬幸子：β-カロテン解裂酵素とビタミンA 代謝関連酵素の遺伝子発現に及ぼす食餌たんぱく質の量と質の影響. 第66回日本栄養・食糧学会大会, 2012.5, 仙台.
42. 高瀬幸子, 清水正則, 寺島健彦, 山口範晃, 駿河和仁：VA欠乏ラットにおけるβ カロテン代謝関連酵素の遺伝子発現：食餌タンパク質の影響. 日本ビタミン学会第６４回大会, 2012.6, 岐阜.
43. Takase S., Kamurun N.A., Shimizu M., Terashima T., and Yamaguchi N：Effects of Dietary Protein Amount and Quality on ・-Carotene and Vitamin A Metabolism・・related Enzymes: Gene expressions in rat small intestine and liver. FASEB Science Research Conferences, June 2012, Snowmass Village.

44. Yamamoto S., Niwa Y., Ogawa T., Shimizu M., Asao H., and Kobayahsi H ; Enrichment of lettuce with flavonoids by engineering with all plant-derived genes. The 1st International Conference on Pharma-Food (ICPF 2012). Nov. 2012, Shizuoka.
45. Chuenwarin P., Kato A., Shimizu M., Sawasaki T., and Kobayahsi H : Components involved in phosphorylation cascade of sigma factor 1 in *Arabidopsis.* 第54回日本植物生理学会年会, 2012.3, 岡山
46. 山本峻資, 清水正則, 小林裕和：葉緑体における光色依存遺伝子発現「光スイッチ」. 第54回日本植物生理学会年会, 2012.3, 岡山.
47. Ayako Miura, Chitose Sugiyama, Hiroyuki Sakakibara, Kayoko Shimoi, Toshinao Goda: Comparison of bioavailability of soy isoflavone and equal production between two major soya-based products in young Japanese women. XI Asian Congress of Nutrition, 2011. 7, Singapore
48. 杉山千歳, 稲谷彩, 亀侑季, 丸岡友紀, 松本珠美, 溝口真美：食品抽出物のカンピロバクターに対する抗菌作用, 日本薬学会第132年会, 2012. 3. 札幌.
49. 武藤慶子, 三浦綾子, 杉山千歳, 高瀬幸子：レチノール当量換算方法；改定前と改定後のβ－カロテンとビタミンA摂取量の比較：ある施設の実施献立の場合, 第66回日本栄養・食糧学会大会, 2012. 5, 仙台.
50. 杉山千歳, 鈴木みほ, 松詩織, 三浦綾子：大学生の「食の安全性」に関する意識調査. 第6回日本食育学会・学術大会, 2012. 5, 富士宮.
51. 杉山千歳, 内山愛美, 川崎理絵, 佐藤麻樹, 柴田幸枝, 鈴木愛菜：カンピロバクターに対する食品抽出物の抗菌作用, 日本薬学会第133年会, 2013. 3. 横浜
52. 杉浦千佳子, 茶山和敏：マウス脂肪細胞の脂肪蓄積に対するカテキン及びカフェインの影響, 第8回日本カテキン学会, 2011. 9. 22, 京都
53. CHIKAKO SUGIURA, KASUTOSHI SAYAMA., Effects of catechins and caffeine on lipid metabolism in mouse adipocytes. International Conference Exhibition on Nutraceuticals and Functional Foods, 2011. 11. 15, Sapporo.
54. 杉浦千佳子, 茶山和敏: マウス脂肪細胞の脂肪蓄積に対するカテキンおよびカフェインの影響, 日本農芸化学会2012年度大会, 2012. 3.23, 京都
55. 原 信芳：社会国家とその周辺に関する概念の整理, ワイマールからボン・デモクラシー, ドイツ現代史学会第35回大会, 2012.9, 立命館大学.
56. 三浦綾子：青年期における主要大豆食品の生体利用効率の検討,第58回日本栄養改善学会学術総会, 2011.9,広島市.
57. 三浦綾子、池田朋美: 家庭における食環境と幼児期の食生活の関連性, 第6回日本食育学会学術大会, 2012.5, 富士宮市.
58. 鈴木康夫、杉山千歳、三浦綾子:乳幼児の保護者への食育に関する意識調査, 第6回日本食育学会学術大会,2012.5, 富士宮市.
59. 中川原康子、三浦綾子：学校における食物アレルギー児との共生に関する意識調査, 第59回日本栄養改善学会学術総会2012.9,名古屋市.
60. 三浦綾子、小山ゆう：運動志向と食意識・食生活状況の関連, 第59回日本栄養改善学会学術総会, 2012.9, 名古屋市.

61. ヨハン・メディナ，加塩麻紀子，安達英輔，澤田和明，小島至，永山國昭，　富永真琴，最上秀夫:膵島移植における膵島破壊シグナルとしての TRPM2 チャネル関与，岡崎カンファレンスセンター，2012.6，岡崎.
62. 森下紗帆、望月和樹、合田敏尚：出生後の発達過程におけるラットの肝臓にみられる脂肪酸合成酵素の遺伝子発現の変動とその制御機構，第65回　日本栄養・食糧学会大会，2011.5，東京.

5）外部資金獲得状況

1. 清水正則（研究代表者）：科学研究費補助金，基盤研究(C)，平成24年度～平成26年度．光スイッチシグナルの抑制機構の解明と管理された光環境に適した植物の開発．平成24年度　2730千円
2. 清水正則（連携研究者）：科学研究費補助金，基盤研究(B)，平成23年度～平成25年度．葉緑体遺伝子の選択的発現制御システムの解明とその活用.
3. 最上秀夫（研究代表者）：科学研究費補助金，基盤研究(c)，平成24～26年度，膵島移植超急性期の機械化学応答による膵島破壊シグナルのイメージングサイエンス，平成23年度1300千円，平成24年度．1690千円.
4. 最上秀夫（研究代表者）：私学事業団学術振興資金，膵島移植超急性期における破壊シグナルの解析，平成24年度．　3,750千円
5. 最上秀夫（研究代表者）：大学ネットワーク静岡，長時間顕微鏡観察の為の遠隔操作装置の開発，平成24年度．1,470千円
6. 最上秀夫（研究代表者）：群馬大学共同利用研究拠点，膵島移植超急性期における膵島破壊シグナルの検討，平成24年度．　350千円
7. 最上秀夫(研究代表者)：生理学研究所計画共同研究，光顕・電顕を用いた血小板活性化過程の統合イメージング，平成24年度．　150千円
8. 寺島健彦：受託研究(静岡県茶業研究センター)，ラットを用いた茶のメチルメチオニンスルホニウム(MMS)の機能性と体内動態に関する試験，平成23年09月～12月．475千円.
9. 寺島健彦，受託研究(静岡県茶業研究センター)，平成24年09月～12月，茶のメチルメチオニンスルホニウムが胃粘膜損傷等に及ぼす影響に関する試験．　475千円.

6）　学会以外の講演等

1. 池谷昌枝：「終末期」～管理栄養士としてのかかわりを考える～，神奈川県病院栄養士協議会，2012.4.13，かながわ県民サポートセンター.
2. 小田巻眞理:CKD(慢性腎臓病)の病態と栄養、中東遠地区健康づくり推進研修会、2012.7.24、袋井市月見の里学遊館.
3. 小田巻眞理:高血圧にやさしい食生活、市民公開講座 IN 焼津『血圧管理で豊かな老後』、2012.12.9、焼津市総合福祉会館「ウェルシップやいづ」.
4. 金谷節子：放射能と食事および最近のトピックス，静岡県給食協会浜松支部、2012.7，浜松市.
5. 金谷節子：スポーツと栄養，静岡県立二俣高校，2012.7.21，浜松市.
6. 金谷節子：口から食べて生きる。高齢者の食事，静岡県高等学校福祉教育研究会，2012.6，静岡市.
7. 金谷節子：摂食・嚥下食についての取り組み，兵庫県篠山市給食施設協議会，2012.月，丹波市.
8. 金谷節子:実践栄養学10年の変遷と未来,第11回日本栄養改善学会近畿支部パネルディスカッション ,2012.12,西宮市.

9. 金谷節子：栄養療法最前線抗酸化と五段階による嚥下調整食，第６回福岡摂食・嚥下サポート研究会，2012.12，福岡市.
10. 金谷節子：嚥下食ピラミッドと緑茶ゼリー， 静岡産業機構・総合食品開発展、2013.1，静岡市.
11. 金谷節子：看とりの栄養管理，水分管理，富山県栄養士会，2013.2，高岡市.
12. 川上栄子：地産地消のすすめ～地域で採れる農産物を使って～，磐周学校給食会夏季職員研修 2011．7，袋井市メロープラザ.
13. 川上栄子：楽しく作る、美味しく食べる、健康ライフ，生活習慣病予防講演会．菊川市保健委員会，2011．10．8，菊川市アエル会館.
14. 川上栄子：～食事と栄養「おいしく食事する！それが元気のコツ！」，しずおか健康づくり推進員養成講座， 静岡県老人クラブ連合会，2011．11．7，磐田市体育館.
15. 川上栄子：食事バランスガイドと外食成分表示について，栄養士研修会．2011.11．8 静岡県西部健康福祉センター.
16. 川上栄子：食の文化と食に係る様々な問題，静岡大学医と人間講座，2012.1．13，静岡大学浜松キャンバス.
17. 川上栄子：幼児期における食生活と食育のポイント，社会福祉法人 天竜厚生会　保育園・幼稚園職員春季研修，2012．5．12，天竜壬生ホール.
18. 川上栄子：地場産野菜を活用した『お弁当の日』食育クッキング，磐周学校給食会夏季職員研修 2012．7．31，袋井市メロープラザ.
19. 川上栄子：健康寿命を延ばす「おいしくつくる！楽しく食べる！健康生活！」，平成 24 年度浜松大学公開講座～．2012．11．7，浜松大学.
20. 兒山左弓：食に携わる職員のためのユニットケア研修～入居者の暮らしの視点で「食」について考えよう～， 一般社団法人日本ユニットケア推進センター， 2012．10.2、11.26，11.28，秋葉原 UDX　GALLERY　NEXT2.
21. 兒山左弓：食に関する研修「食で見出す生きがいのある生活を目指して」静岡県老人福祉施設協議会， 2012.1.20．静岡県総合社会福祉会館.
22. 兒山左弓：高齢者の食生活と健康～「おいしく食べる」を支援する～， 第 5 分科会助言者， 近畿老人福祉施設研究協議会　奈良大会， 2012.7.20，奈良ロイヤルホテル.
23. 兒山左弓：ターミナルにおける連携～栄養士の役割～， 栃木県高齢者栄養ケア研究会， 2012.10.19，宇都宮市東市民活動センター.
24. 小山ゆう：サッカー選手のための食育，NPO 法人浜松フットボールアカデミー食育講演会，2011.9.23，浜松大学.
25. 近藤今子：「行政栄養士の業務」「公衆栄養事業の企画」、静岡県健康づくり担当者研修会、2011．9．20，静岡県総合健康センター.
26. 近藤今子：「食事バランスガイドの解説と活用」、食農教育パワーアップ講座 2011．11．19，クリエイト浜松.
27. 近藤今子：「これからのボランティア活動について」、浜松市西区食育ボランティア研修会、2012．2．13，浜松市西区役所
28. 近藤今子：「行政栄養士の業務」「公衆栄養行政における実態把握」、静岡県新任期地域保健従事者研修会（栄養士編）、2012．9．25，静岡県庁
29. 杉山千歳：食品と薬の相互作用．平成 23 年度第一回中東遠地区健康づくり推進研修会，2011．6．袋井市月見の里学遊館
30. 杉山千歳：食の安全を考える．平成 24 年度教員免許状更新講習，2012．8．浜松大学

31. 三浦綾子：少年期における運動・栄養・休養　～リズムで守るこどもの健康～, 2011.6.6, 森町立森小学校.
32. 三浦綾子：父親&母親のための子育て教室～食生活を楽しもう～, 2012. 6. 28, 浜松市子育て情報センター, 浜松市.

7）その他

a)テレビ

1. 川上栄子：なじみの薄いシカ肉. 女子大生が新メニューに. SBS テレビイブニング eye. 2011. 6. 5.
2. 川上栄子:シカ肉のレシピ紹介「女子大生考案　シカ肉が絶品料理に」, テレビ静岡　スーパーニュース特集, 2011. 6. 11.
3. 川上栄子：「熱中症対策」, 梅干しの効能に関するコメント, 静岡第一テレビ　○ごとワイド　news every 静岡, 2011. 8. 9.
4. 川上栄子：「発酵食品　塩麹・しょうゆ麹」, 麹を使った食品に関するコメント. 静岡第一テレビ○ごとワイド news every 静岡, 2012.8.

b)新聞

1. 金谷節子：柔らか　介護食おせち, 東京新聞, 2012.10.17.
2. 金谷節子：中日新聞「おせち料理」2012.10 月 24 日.
3. 金谷節子:最期まで口から食べる事で人間としての品位と尊厳を持つ事ができる, 月刊メニュアイディア, 2011.6.
4. 金谷節子：　嚥下食・介護食はどこから来てどこに行くのか, 月刊メニュアイディア, 2012.3.
5. 川上栄子：シカ肉を使った試食会記事. 中日新聞　県内版, 2011. 5. 28, 静岡新聞, 2011. 6. 1, 日本農業新聞, 2011. 6. 5.
6. 川上栄子：「ガ・レロ」試食会　米粉料理商品化に関する記事. 讀賣新聞　県内版, 2011. 9. 17, 静岡新聞　県内版, 2011. 9. 22, 日本農業新聞, 2011. 9. 27.
7. 川上栄子：中部地区正月料理・御雑煮特集記事　浜松市の御雑煮、正月料理１品紹　　介記事. 中日新聞こどもウィークリー, 2011. 12. 31.
8. 小山ゆう：「HUVOC 隊」浜松大で出発式. 静岡新聞掲載, 2011.4.27.
9. 小山ゆう：強豪 料理でアシスト. 中日新聞掲載, 2011.8.9.
10. 小山ゆう：食事作りで合宿サポート. 静岡新聞掲載, 2011.8.10.
11. 小山ゆう：サッカー選手に必要な食学ぶ. 静岡新聞掲載, 2012.7.25.
12. 小山ゆう：浜大生がレシピ提案. 静岡新聞掲載, 2012.10.6.
13. 近藤今子：湖西市の食育推進に関する会議での講演等に関する記事, 中日新聞, 2011.12. 14, 静岡新聞, 2011.12. 14.
14. 近藤今子：若者の食の実態把握, 静岡新聞, 2012.8.9.
15. 原 信芳：書評 ルフ・プレーヴェ著、阪口修平監訳、『一九世紀ドイツの軍隊・社会・国家』(創元社　2010 年) 軍事史学会編『軍事史学』第 47 巻第 4 号, 119－123, 2012.3

こども健康学科

1） 著書

1. 中島登代子：第２章　心理臨床の「仕事」．山中康裕（編）『心理臨床の広がりと深まり遠見書房，pp. 27-40, 2012．分担著
2. 中島登代子：終章　揺れる心と心理臨床――揺れる大地と自然の力、山中康裕監修、中島登代子、森岡正芳、前林清和（編）『揺れるたましいの深層』創元社、pp. 276-288、2012. 12. 10．分担著
3. 山崎秀夫:保健師国家試験全国統一模擬試験 2013 年, インターメディカル編, pp16-17, インターメディカル, 2012、分担著
4. 山崎秀夫:保健師国家試験エッセンシャルポイント　解答と解説 2013, インターメディカル編, pp54-55, インターメディカル, 2013, 分担著
5. 海野展由:考え、実践する教育・保育実習. 上野恭裕・大橋喜美子・浦田雅夫編, pp56-59, pp66-67, pp166, pp169-170, 保育出版社，2011，分担著
6. 海野展由：最新保育原理．上中修編，pp143-145，保育出版社，2012，分担著
7. 柴田俊一：心理臨床の広がりと深まり．山中康裕編，pp147-159，遠見書房，2012．分担著
8. 田中浩之：通信教育課程サブテキスト総合演習．帝京短期大学（武田印刷），2011，単著
9. 田中浩之：考え、実践する教育・保育実習．上野恭裕・大橋喜美子・浦田雅夫編，pp56-59，pp85-86，保育出版社，2011，分担著
10. 田中浩之:教育・保育実習ガイドライン――よき保育者をめざして 第３版. 溝口綾子・本多泰洋・松浦圭子, pp14-15, pp43-46，pp54-55，pp81-85，pp121-131，帝京短期大学（武田印刷），2012，分担著
11. 田中浩之：幼稚園・保育士のための実習ガイドブック．福本俊、福山多江子、田中浩二、大塚良一編，大学図書出版、2013（印刷中），分担著
12. 高向山：東アジア発達スケール（仮題）．青柳肇他編，田中教育出版，2012，分担著（校正中）
13. 高向山：保育心理学Ⅰ．柳生崇志・梅崎高行編著，大学図書出版，2012，分担著（印刷中）
14. 羽田野真帆：共生と希望の教育学．岡本智周、田中統治編，pp109-120，筑波大学出版会，2011．分担著

2） 総説

1. 中島登代子：ケースカンファレンス考―心理臨床家養成の場として．浜松大学臨床心理事例研究，3-1：7-11, 2012. 3
2. 中島登代子：人材養成におけるスーパーヴィジョン―スーパーヴィジョンで何ができるか、浜松大学臨床心理事例研究、4-1:2013.（印刷中）
3. 海野展由：生きていることのミッション．キリスト教保育第 521 号，pp40-42，2012. 8
4. 海野展由：ギフトオブマイセルフ．キリスト教保育第 522 号，pp40-42，2012. 9
5. 三井敏正:英語教育時評　越えねばならない文化の高い壁. 英語教育(開隆堂出版），Vol. 64-2 530 号, p16, 2012. 9

3） 原著論文

1. 岸本貫史・中島登代子：「役者の心は開かれている？――バウムの幹先端処理に着目して」臨床心理身体運動学研究, 14：19-28, 2012.3
2. Maeda T, Furutani M, Nagaoka Y, Goto S, Nakajima T ： Ten Oxherding Pictures of collegiate athletes －From the perspective of the individuation process－. Japanese Journal of Clinical Studies for Mind & Body, 14, 29-47, 2012.3.31
3. 中島登代子：芸術と心理臨床―スポーツカウンセリングの可能性-. 精神療法, 38-5：663-668, 2012,10
4. 坂部創一、山崎秀夫:環境情報におけるテクノ依存症のうつ傾向に及ぼす影響に関する研究. 環境情報科学論文集(26):143-148. 2012
5. 三井敏正：海外研修において学生が直面する文化的及び言語的問題, 健康プロデュース雑誌 7 (1), (印刷中)
6. 木山幹恵、森下直貴、田島博之、岡田勇:病棟看護師の倫理的責務についての一考察. 健康プロデュース雑誌 7 (1), (印刷中)
7. 田中浩之：野外教育活動における学生の態度変容の様態. 帝京短期大学紀要 17(17) ： 77-90, 2012.
8. 高向山、安部千鶴、生駒美奈、恩田彩未：幼稚園と家庭を結ぶ書き物―大正、昭和、平成からの一考察―. 健康プロデュース雑誌（浜松大学）6 (1)：67-72. 2012
9. 高向山：保育所（3 歳未満児クラス）と家庭を結ぶ連絡帳―昭和後期～平成における通時的考察―. 健康プロデュース雑誌（浜松大学）7 (1), (印刷中)
10. 羽田野真帆：中学生によるフリーターイメージの関連要因の探索. 若者における職業意識の形成―2010-11 年度教育調査実習報告書―：29-36, 2011.

4） 報告

1. 中島登代子、古谷学、長岡由紀子、柴田俊一、前田正、木村佐枝子、藤田将範、宮崎祥子、井田安寿、石川聖子：表現療法としてのミュージカルの可能性――音楽座ミュージカルの冒険、健康プロデュース雑誌、Vol.7、2013.（印刷中）

5） 学会発表

a)一般演題

1. Nakajima T.Psychotherapeutic process of the male adolescent client. -Initiation from the perspective of picture therapy- The3rdInternational Conference on Expressive Therapy, Suzhou,Mainland China,2011, 39-40
2. Yamazaki H, Jian-Guo Zhang, Sakabe S, Morita T, Danbara M, Sakoyama H, Yamane T, Saita M: Characteristics of semihealth status among young-adults in Japan and China from a practical light of Health Promotion. International Conference on Interprofessional Partnership: Improvement for Global Health Outcomes. 2012 (Chiang Mai)
3. Yamane T, Yamazaki H, Kusachi H, Isomura S:Tackle with mental health care of the community in Japan: Project of NPO "Flat Community". International Conference on Interprofessional Partnership: Improvement for Global Health Outcomes. 2012 (Chiang Mai)
4. 中島登代子、日本臨床心理身体運動学会第 14 回大会ワークショップ「学校現場に活かす心理臨床家の智恵～チームワークのあり方考～」, 北海道教育大学函館校, 2011.12.10

5. 中島登代子「家族の病気が主訴で来談した女性の事例」（題目一部省略），日本臨床心理身体運動学会主催事例研修会、奈良、2011.7.2
6. 坂部創一、山崎秀夫:テクノ依存症傾向のうつ傾向に及ぼす影響に関する研究. 2012 年社会情報学会(SSI)学会大会. 2012(前橋市)
7. 檀原三七子、守田孝恵、山崎秀夫、福田吉次:糖尿病地域医療連携システムの取組から捉えた推進要因の検討. 第 71 回日本公衆衛生学会総会. 2012(山口市)
8. 磯村聡子、守田孝恵、山崎秀夫、檀原三七子、迫山博美、兼平朋美、浦田範子:精神障害者の近隣交流の構造化と性別・家族構成との検討. 第71回日本公衆衛生学会総会. 2012(山口市)
9. 杉野千秋、檀原三七子、守田孝恵、山崎秀夫:麻疹に関する看護学生と一般学生の知識と意識調査. 第 71 回日本公衆衛生学会総会. 2012(山口市)
10. 坂部創一、山崎秀夫:情報環境におけるテクノ依存症傾向のうつ傾向に及ぼす影響に関する研究. 第26回環境情報科学学術研究論文発表会. 2012(東京)
11. 磯谷仁：子どもを対象としたスポーツビジネス. 東海体育学会, 2011.10, 静岡産業大学
12. 柴田俊一：お母さんが元気になる講座「Nobody’s Perfect 完璧な親なんていない」の実施事例. 第28回日本家族研究・家族療法学会, 2011.6, 静岡市（口頭発表）
13. 柴田俊一：親支援（教育）プログラムの現状と課題. 第9回日本子ども学会, 2012.10, 東京都（口頭発表）
14. 木山幹恵、加々美舞子、田島博之、本家淳子、河合美奈：A study of ethical decision-making process on Japanese nurses、14thEAFONS, Mar.2011, Korea.
15. 加々美舞子、木山幹恵、河合美奈：Nurse’s conflict to nurse―call in correspondence scene、14thEAFONS, Mar.2011, Korea.
16. 田中浩之：野外における環境体験―幼稚園教諭・保育士の野外教育活動の指導力・園助力の形成―. 日本環境教育学会第22回大会, 2011.7, 青森大学
17. 田中浩之：ビオトープ体験を通した幼児の感性的認識の実態把握. 日本環境教育学会第22回大会, 2011.7, 青森大学.
18. 田中浩之：体験教材としてのビオトープを活用した指導法の研究―保育園の例―. 日本教師教育学会第21回研究大会, 2011.9, 福井大学
19. 田中浩之：体験教材としてのビオトープ―保育園の例―. 日本教材学会第23回研究発表大会, 2011.10, 東京学芸大学.
20. 田中浩之：生活科におけるビオトープの活用―ビオトープ体験を通した児童の変容―. 日本生活科・総合的学習教育学会第21回全国大会, 2012.6, 徳島大会.
21. 田中浩之：園外保育における環境体験. 日本環境教育学会第23回大会, 2012.8, 立教大学.
22. 田中浩之：保育園におけるビオトープの活用. 日本教師教育学会第22回大会, 2012.9, 東洋大学.
23. 田中浩之：小学校社会科における食農教育の実践的研究―「のらぼう菜」を例に―. 日本社会科教育学会第62回全国研究大会, 2012.9, 東京学芸大学.
24. 田中浩之：乳幼児における感性的認識の変容―ビオトープを通して―. 日本教材学会第24回研究発表大会, 2012.10, 福山大学 .
25. 杉本貴代：成人日本語学習者における形態音素規則の習得過程と母語の影響. 日本比較文化学会, 2013.3.9（予定）.

26. 杉本貴代：幼児期における連濁の獲得過程に関する実証的研究. 日本発達心理学会, 実験発達心理学ワークショップ 2013.3.15（予定）.
27. 高向山：保育所と家庭を結ぶ連絡帳の研究―3 歳未満児の場合の記入特徴の変化について―. 日本保育学会第 65 回大会. 2012.5, 東京家政大学.

b) シンポジウム等

1. 中島登代子：捨てる！変わる！ 日本臨床心理身体運動学会第 14 回大会公開シンポジウム（指定討論者）, 北海道教育大学函館校, 2 011.12.10.
2. 中島登代子：不登校の母、家族、心理療法～息子の不登校がきっかけで来談した母親との面接～. 日本臨床心理身体運動学会第 14 回事例研究（指定討論者）, 北海道教育大学函館校, 2011.12.10.
3. 中島登代子：チーム帯同型サポートでのサポート事例. 日本臨床心理身体運動学会主催第 43 回事例研修会（指定討論者）, 東京, 2012.6.17.
4. 中島登代子：ある女性との面接（題目一部省略）. 日本臨床心理身体運動学会主催第 44 回事例研修会（指定討論者）, 奈良, 2012.9.22.
5. 中島登代子：身体を通した語り～魅せる～. 日本臨床心理身体運動学会第 15 回大会公開シンポジウム（指定討論者）, 東京成徳大学, 2012.12.8.
6. 中島登代子：境界性人格障害女性の 5 年間の治療経過と 10 数年後の転帰―治療資源としての精神科病棟。その【抱える】機能が有用であったと考えられる一例―. 日本臨床心理身体運動学会第 15 回大会事例研究（指定討論者）, 東京成徳大学, 2012.12.9.
7. 柴田俊一：児童虐待予防における親支援プログラムの役割について. 第 16 回日本子どもの虐待防止学会（分科会座長・話題提供者）, つくば市, 2011.12.
8. 柴田俊一： Nobody’s Perfect『完璧な親なんていない』のファシリテーションについて学ぶ. 第 17 回日本子どもの虐待防止学会（研修講師）, つくば市, 2011.12.

6） 外部資金獲得状況

1. 山崎秀夫(研究代表者). 科学研究費補助金, 基盤研究(C), 平成 23ー平成 26 年度. 学校保健の見地から捉えた青少年の半健康様相と変動規定要因に関するコホート研究. 1040 千円.
2. 山崎秀夫(研究分担者). 科学研究費補助金, 基盤研究(C), 平成23ー平成25年度.「精神障害者の事例から分析する地域診断プログラム」の開発. 40 千円.
3. 木山幹恵（研究代表者）. 科学研究補助費, 基盤研究(C), わが国の文化に基づく看護実践の倫理―倫理学的理論からの探求―. 平成 23 年度. 80 万円. 平成 24 年度. 70 万円.
4. 田中浩之. 財団法人文教協会平成 23 年度文教協会調査・研究助成, 平成 23 年 7 月 1 日～平成 24 年 7 月 31 日. ビオトープの教材性と学習効果に関する研究―ビオトープ体験による幼児の興味の連続性の形成―. 64 万円.

7）学会以外の講演等

1. 中島登代子：東日本大震災に関わる被災地派遣警察官への心理的ケア．（風景構成法描画、個人面接、講演、派遣が続き心労を訴える警察職員への継続的な心のケア）静岡県警察浜松中央警察署，2011.6 月～8 月，
2. 中島登代子：教育現場に「心」の真実を！～こころの働きを知れば予測可能なことが増える～．高等学校生徒指導教員研修，静岡県立天竜林業高等学校，2011.5
3. 中島登代子：子どもが社会生活が困難という訴えでの相談事例．第 125 回鹿屋溪蓀塾心理教育相談室事例研究会（日本臨床心理士資格認定協会定例型研修会承認番号 419374）鹿児島，2012,5,12
4. 中島登代子：岐阜県認定スポーツ指導者養成講習会（日本体育協会公認スポーツ指導者養成講習会免除適用）岐阜県スポーツ科学トレーニングセンター，岐阜，2012.6
5. 中島登代子：ある母親の心理療法面接より（題目一部省略）．第 169 回溪蓀塾心理教育相談室事例研究会（日本臨床心理士資格認定協会定例型研修承認番号 230083）浜松，2012.9.8
6. 中島登代子：息子の不登校のことを相談したいという女性との面接（題目一部省略）.鹿屋溪蓀塾心理教育相談室第 129 回事例研究会（日本臨床心理士資格認定協会定例型研修承認番号 419374）鹿児島，2012.9.29
7. 中島登代子：平成 24 年度第 2 回女子強化訓練講習会（全日本女子候補選手強化合宿）全日本剣道連盟，東京，2012.12.14
8. 中島登代子:平成 24 年第 4 回男子強化訓練講習会(第 4 期　第 6 回剣道選抜特別訓練講習会)全日本剣道連盟，東京，2013.3.1（予定）
9. 中島登代子：第 153 回～第 172 回溪蓀塾心理教育相談室事例研究会（財団法人日本臨床心理士資格認定協会定例型研修承認番号：230083 号～230083 号）（指定討論者）静岡，2011.4.10～2012.12.24
10. 中島登代子：第 112 回～第 132 回鹿屋溪蓀塾心理教育相談室事例研究会（日本臨床心理士資格認定協会定例型研修承認番号 419374 号～419374 号）（指定討論者）鹿児島，2011,4,16～2012,12,26
11. 海野展由：保育の心．浜松市ファミリーサポート養成講座，浜松市雄踏文化センター，2011.6.17&2011.9.8／浜松市子育て情報センター，2012.10.16
12. 海野展由：キリスト教保育とは何か．愛知キリスト教主義幼稚園・保育園，第 20 回新任者研修セミナー，豊橋旭幼稚園,2012.3.26
13. 海野展由：実践に活かす保育研究．いわた保育士会研究部会，磐田市アミューズ豊田，2012.2.18
14. 海野展由：保育環境と遊び．静岡市公立幼稚園南部ブロック研修会，静岡市職員会館，2012.7.18
15. 海野展由：Ｂ・Ｅ・Ｓ・Ｔな子育て．浜松市立与進幼稚園家庭教育講座，浜松市立与進幼稚園，2012.11.2 ，
16. 海野展由：保育と食育．静岡市公立幼稚園南部ブロック研修会，静岡市職員会館，2012.12.3
17. 海野展由：ギフト・オブ・マイセルフ．幼稚園教育講座，宇都宮市みふみ幼稚園，2013.1.28
18. 海野展由：いのち輝いて．いわた保育士会研究部会，竜洋なぎのき会館，2013.2.16
19. 海野展由：神に用いられる保育者として．キリスト教保育連盟静岡クラブ会，清水テルサ,2013.2.23
20. 三井敏正：日本語と英語の違いと切り替え．浜松電気工事協同組合例会，2012.4
21. 磯谷仁：船橋市児童ホーム職員研修．千葉県船橋市本中山児童ホーム体育室，2011.5.26,
22. 磯谷仁：静岡県遠州地区『子育てフェア』，静岡県遠州地区私立幼稚園協会，磐田市アミューズ豊田メインアリーナ，2011.5.28
23. 磯谷仁：平成 23 年度児童館指導員研修会，神戸市総合児童センター地域児童課，神戸市総合児童センター，2012.6.3

24. 磯谷仁：名古屋市児童館職員研修．名古屋市児童館連絡協議会，とだがわこどもランド，2011.7.5
25. 磯谷仁：保育士実技研修会，豊川市保育連絡協議会，豊川市農業者トレーニングセンター，011.7.27
26. 磯谷仁：男性職員交流研修会，静岡県保育所連合会西部支部，アクトシティー浜松研修交流センター，2011.8.12
27. 磯谷仁：兵庫県幼稚園連合会・夏季実技研修会，（社）兵庫県私立幼稚園協会，姫路市立中央体育館，2011.8.17
28. 磯谷仁：兵庫県幼稚園連合会・夏季実技研修会，（社）兵庫県私立幼稚園協会，尼崎市中小企業センター，2011.8.18
29. 磯谷仁：第2回児童館職員研修会，宮城県児童館連絡協議会，仙台市中央市民センター，2011.10.21
30. 磯谷仁：豊橋幼稚園協会教員研修会，豊橋幼稚園協会，総合福祉センターアイトピア，2011.10.22
31. 磯谷仁：児童館厚生員・児童クラブ指導員研修会，蒲郡市児童課，蒲郡市民会館，2011.10.24
32. 磯谷仁：集団援助活動 幼児・児童体育指導．別府市放課後児童クラブ連絡協議会，ラクテンチ・ファミリーホール，2011.11.5
33. 磯谷仁：放課後子どもプラン指導者研修会，（財）児童健全育成推進財団，富山国際会議場，2012.7.16
34. 磯谷仁：裾野市立幼稚園教諭全体研修会．裾野市立幼稚園協会，裾野市東地区コミュニティーセンター，2012.7.31
35. 磯谷仁：明日につながる保育．公益財団法人浜松市文化振興財団，浜松こども館，2012.8.1
36. 磯谷仁：静岡県スポーツ推進委員連絡協議会実技研修会．静岡県スポーツ推進委員連絡協議会，小笠山総合運動公園エコパ・エコパアリーナ，2012.8.5
37. 磯谷仁：兵庫県幼稚園連合会・夏季実技研修会．（社）兵庫県私立幼稚園協会，姫路市立中央体育館，2012.8.16
38. 磯谷仁：兵庫県幼稚園連合会・夏季実技研修会．（社）兵庫県私立幼稚園協会，尼崎市中小企業センター，2012.8.17
39. 磯谷仁：東日本Bブロック児童厚生員等基礎研修会．（財）児童健全育成推進財，グランドホテル浜松，2012.9.6
40. 磯谷仁：ときわ支部会研修会『運動あそび』．静岡市保育士会ときわ支部会，市民文化会館，2012.9.19
41. 磯谷仁：放課後子どもプラン指導者研修会．（財）児童健全育成推進財団，ホテルコスモスクエア国債交流センター大阪，2012.9.30
42. 磯谷仁：保育に生かせる遊びと話．いわた保育士会，竜洋体育センター，2012.11.17
43. 磯谷仁：放課後子どもプラン指導者研修会．（財）児童健全育成推進財団，上智大学，2012.12.9
44. 柴田俊一：児童虐待の現状と課題．　新潟県子育て支援関係者研修会，新潟市，2011.1.13
45. 柴田俊一：子育て支援者になるために．　新潟県親教育プログラム指導者養成講座，新潟市，2011.1.14～17
46. 柴田俊一：行政への関わり方について．Nobody’s Perfect 全国フォーラム．浜松市，2011.1.30
47. 柴田俊一：児童虐待予防の現状と課題．浜松市浜北区母子保健関係者研修会，浜松市，2011.2.26
48. 柴田俊一：より良い親子関係をめざして．葵ケ丘幼稚園ＰＴＡ研修会，浜松市，2011.5.7
49. 柴田俊一：子どもの相談にのるということ．チャイルドライン相談員研修会，浜松市，2011.5.15
50. 柴田俊一：児童虐待予防の現状と課題．名古屋市子育て支援関係者研修，名古屋市，2011.6.10
51. 柴田俊一：支援者を支援する．浜松市高齢者支援関係者研修，浜松市，2011.6.21
52. 柴田俊一：愛着問題から考える児童虐待．磐田市民生委員子育て支援関係者研修会，磐田市，2011.7.12
53. 柴田俊一：児童虐待予防地域でできること．浜松市北区社会福祉協議会子育て支援会，浜松市，2011.8.24
54. 柴田俊一：お母さんが元気になるために．浜松市立新原幼稚園保護者研修会，浜松市，2011.11.1
55. 柴田俊一：親を支援するということ．磐田市保育研究会職員研修会，磐田市，2011.11.12
56. 柴田俊一：子育て支援最近の話題．東京都中野区子育て支援関係者研修会，中野区，2011.12.10
57. 柴田俊一：子育て支援の現状．Nobody’s Perfect 全国フォーラム，東京都，2012.1.21

58. 柴田俊一：子育て支援者の役割. 静岡県子育て支援関係者研修会, 浜松市, 2012.1.30
59. 柴田俊一：子育て支援と支援者の精神的健康. 浜松市子育て支援者研修会, 浜松市, 2012.2.24
60. 柴田俊一：児童虐待予防と地域活動. 豊橋市子育て支援関係者研修会, 豊橋市, 2012.3.1
61. 柴田俊一：虐待を受けた児童の愛着. 児童養護施設清明寮研修, 浜松市, 2012.4.17
62. 柴田俊一：子育て支援者のエンパワメント. 浜松市西区子育て支援研修会, 浜松市, 2012.5.19
63. 柴田俊一：愛着障害について. ｺﾐｭﾆﾃｨ・ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞｾﾝﾀｰ研修会, 東京都, 2012.5.31
64. 柴田俊一：愛着障害について. 浜松市こども館職員研修, 浜松市, 2012.6.13
65. 柴田俊一：子どもの虐待と愛着障害. 浜松市こども館保育士研修会, 浜松市, 2012.8.1
66. 柴田俊一：学童期におけるより良い生徒と教師のコミュニケーションについて. 長野県北相木村教職員研修会, 長野県, 2012.8.2
67. 柴田俊一：親のできること. 浜松市ひきこもりを考える親の会研修会, 浜松市, 2012.8.19
68. 柴田俊一：子どもの話を聞くということ. チャイルドライン相談員研修会. 浜松市, 2012.8.26
69. 柴田俊一：保育士の家庭支援. 浜松市ハロー保育園関係者研修会, 浜松市, 2012.9.1
70. 柴田俊一：児童虐待と愛着障害. 全国児童厚生員研修会, 浜松市, 2012.9.5
71. 柴田俊一：親支援プログラムの現状と課題. 相模女子大学子育て支援研修会, 相模原市, 2012.10.27
72. 柴田俊一：Nobody’s Perfect の展開. 親の学び・親支援ネットワーク研修会, 東京都, 2012.11.3
73. 柴田俊一：愛着障害と思春期の問題行動について. 掛川工業高校教職員研修会, 掛川市, 2012.11.15
74. 柴田俊一：より良い子育て支援者を目指して. 島田市教育委員会研修会①, 島田市, 2012.11.19
75. 柴田俊一：児童虐待と愛着障害. 静岡県子育て支援関係者研修会, 浜松市, 2012.11.20
76. 柴田俊一：より良い子育て支援者を目指して. 島田市教育委員会研修会②, 島田市, 2012.12.3
77. 柴田俊一：保育所における親子関係支援. 磐田市保育士連合会研修会, 磐田市, 2012.12.8
78. 田中浩之：生活科・総合的な学習 ふるさとの自然再発見―学ぶ・守る・交流の和を広げる活動―. 愛知県岡崎市立秦梨小学校２学期授業研究会, 愛知県岡崎市立秦梨小学校, 2011.11.14
79. 田中浩之：教員にとって必要なもの―ｾﾝｽ･ｵﾌﾞ･ﾜﾝﾀﾞｰから―, 帝京短期大学生活科学科食物栄養専攻教職実践演習Ⅱ講演会, 帝京短期大学, 2011.12.2
80. 田中浩之：子どもが遊びに取り組む保育環境. ―園外保育（お散歩・ビオトープ活用）、静岡県公立保育園研修会, 静岡市駿河区役所, 2012.6.27
81. 田中浩之：学童期の生活と発達―子どもの見方・とらえ方―, 第４回十勝学童保育研究集会, 帯広市役所, 2012.11.11

８）その他

a)講師等

1. 中島登代子: 教職員免許更新講習（必修講習）「深層心理学から見た子どものこころの成熟と現代的課題」浜松大学, 2012.8.6
2. 中島登代子: 古谷学、柴田俊一、長岡由紀子、教職員免許更新講習（選択講習）「現場教員のための臨床心理技法」浜松大学, 2012.8.9
3. 山崎秀夫： 教職員免許更新講習（必修講習）「学校における危機管理上の課題」浜松大学, 2012.8.7
4. 海野展由： 教職員免許更新講習（必修講習）「教員としての子ども観、教育観の省察」浜松大学, 2012.8.6

5. 柴田俊一： 教職員免許更新講習（選択講習）「子どもの家庭環境」浜松大学，2012.8.8
6. 磯谷仁： 家庭教育支援講師．奈良県教育委員会，2012.3.6
7. 磯谷仁： 教職員免許更新講習（選択講習）「子どもの体育指導」浜松大学，2012.8.8
8. 木山幹恵： 教職員免許更新講習（選択講習）「幼児・児童の健康観察」浜松大学，2012.8.10
9. 田中浩之：教職員免許更新講習（選択講習）「わくわくどきどき・ビオトープ」浜松大学，2012.8.10
10. 羽田野真帆： 教職員免許更新講習（必修講習）「特別支援教育に関する新たな課題」浜松大学，2012.8.6

b)演奏等

1. 佐々木由美子：掛川市童謡唱歌発表会 模範演奏と総評，美感ホール，2011.11.26 ．
2. 佐々木由美子：第2回クラシックコンサート 演奏．横浜市フィリアホール，2012.6.30 ．
3. 佐々木由美子：ボランティアクリスマスコンサート 演奏（横浜市立美しが丘中学校ブラスバンド部と共演），七沢リハビリテーション病院脳血管センター玄関ホール，2012.12.15 ．

心身マネジメント学科

1） 著書

1. 竹内修二・松村天裕：カラー図解骨のしくみ・はたらき事典. 西東社, 2011. 共著
2. 竹内修二：数字で読み解くからだのふしぎ. 講談社, 2012. 単著
3. 竹内修二：人体解剖の基本がわかる事典. 西東社, 2012. 単著
4. 竹内修二：解剖トレーニングノート改訂第５版. 医学教育出版社, 2012. 単著
5. 竹内修二：プロが教える人体のすべてがわかる本. ナツメ社, 2012. 単著
6. 前田　正、古谷　学、長岡由紀子、後藤慎吾ほか：心理臨床の広がりと深まり. 山中康裕編著, 遠見書房, pp41-50, 51-64, 85-101, 102-117, 2012. 分担著
7. 前田　正、古谷　学、長岡由紀子、木村佐枝子ほか：揺れるたましいの深層ーこころとからだの臨床学ー. 山中康裕編著, 創元社, pp72-88, 149-164, 171-186, 259-275, 2012. 分担著
8. 前林清和・木村佐枝子・黒崎優美・荒屋昌弘：体育教師のための教育カウンセリング. トゥエンティワン出版部, pp49-79, 135-171, 2012.4. 分担著
9. 仲田康一：よくわかる教育原理. 汐見稔幸、高田文子、東　宏行、増田修治、伊東　毅 編著, ミネルヴァ書房, pp208-209, 263-264, 282-283, 2011. 分担著
10. 仲田康一：学校改善マネジメント. 篠原清昭編著. ミネルヴァ書房, pp252-271, 2012. 分担著
11. 仲田康一：保護者対応で困ったときに開く本. 佐藤晴雄編著. 教育開発研究所, pp16-17, 2012. 分担著
12. 仲田康一：総合教育技術増刊 実践教育法規2012. 水本徳明編著. 小学館, pp78-85, 2012.分担著

2） 総説

1. 前田　正：巻頭言. 浜松大学臨床心理事例研究 3(1) : 1-2, 2012.2.27.
2. 前田　正：小海論文へのコメント. 多摩心理臨床学研究 5: 13-16, 2011.

3） 原著論文

1. 菊本智之：近世為政者の武芸実践と武芸研究に関する一考察　～松代藩主 真田幸貫の武芸研究を中心に～. 健康プロデュース雑誌（浜松大学）6(1)：127－137, 2012.
2. Maeda T, Furutani M, Nagaoka Y, Goto S, Nakajima T：Ten Oxherding Pictures of collegiate athletes -From the perspective of the individuation process-. Japanese Journal of Clinical Studies for Mind & Body. 14：29-47, 2012.
3. 前田　正：アスリートの個性化と現実適応. 精神療法 38(5):60-67, 2012.
4. 前田　正：ケースカンファレンス論考. 浜松大学臨床心理事例研究 3(1):13-18, 2012.
5. 前田　正：「傾聴」を再考する. 浜松大学臨床心理事例研究 2(1):9-12, 2011.
6. 古谷　学：「きくこと」を考える. 浜松大学臨床心理事例研究2(1)：19-22, 2011.
7. 古谷　学：ケースカンファレンスを体感する. 浜松大学臨床心理事例研究3(1)：23-31, 2012.
8. 古谷　学：競技スポーツの世界と心理臨床の世界. 精神療法38(5)：32-37, 2012.
9. 古谷　学：「私」のスーパーヴィジョン. 浜松大学臨床心理事例研究4(1)：印刷中, 2013.

10. 古谷　学, 長岡由紀子：効果的なテストバッテリーの構築に関する基礎的研究(1)－YG 性格検査と TEG の相関分析からみた TEG 尺度の再検討－. 健康プロデュース雑誌 7(1)：印刷中, 2013.
11. 長岡由紀子, 古谷学：粘土による箱庭玩具制作からみた表現の傾向. 健康プロデュース雑誌 7(1)：印刷中, 2013.
12. 中島登代子, 柴田俊一, 長岡由紀子, 古谷　学, 前田　正, 木村佐枝子, 藤田将範, 宮崎祥子, 井田安寿, 石川聖子：表現療法としてのミュージカルの可能性―音楽座ミュージカルの現場. 健康プロデュース雑誌 7(1)：印刷中, 2013.
13. 星川秀利、沢崎健太、有馬義貴、中澤寛元、里 大輔、吉田早織、宮村 司、田中誠一：微小突起による皮膚刺激か激運動後の血中乳酸濃度に及ほす影響. Eastern Medicine 28(2)：45-54, 2012.
14. 佐野村　学, 入江一憲：足趾開排能が動的下肢アライメントに及ぼす影響　－足趾開排指示下の片脚スクワット, 片脚ドロップランディング, カッティング動作の分析－. 日本臨床スポーツ医学会誌 20(1)：112-121, 2012.
15. 佐野村　学, 細川由梨, 中村千秋, 福林　徹：大学女子ラクロスにおける前向き傷害調査. 日本臨床スポーツ医学会誌 20(3)：460-468, 2012.
16. 佐野村　学, 阪口正律, 佐保泰明, 福林　徹：ドロップジャンプ時におけるラクロススティックの保持や操作が下肢キネマティクス・キネティクスに及ぼす影響. 臨床バイオメカニクス 33：383-388, 2012.
17. 佐野村　学, 入江一憲：足趾開排指示の有無が動的下肢アライメントに及ぼす影響　－片脚スクワット, 片脚ドロップランディング, カッティング動作の分析－. 日本臨床スポーツ医学会誌 21(1)：2013. ~~(in press)~~
18. 木村佐枝子、小山ゆう：大学の社会貢献活動としての実践的授業展開と課外活動の教育的意義　－静岡県ことばと心を育む会「夏休みひまわり講座」－. 健康プロデュース雑誌 6(1)：105-115, 2012.
19. 木村佐枝子、櫻井博紀、小山ゆう：東日本大震災における大学生のボランティア活動－浜松大学 HUVOC 隊の活動－. 健康プロデュース雑誌 6(1)：117-126, 2012.
20. 木村佐枝子：大学における社会貢献の意義. NGO 活動研究 10(1)通巻 12：1-12, 2012.
21. 木村佐枝子：国際ボランティアの教育的意義　－学生主体によるカンボジア教育支援プロジェクトを中心に－. 国際貢献ジャーナル 1(1)：2012.
22. 前林清和、木村佐枝子、江田英里香：ソーシャルキャピタルとしての大学の社会貢献活動に関する考察. 安全・安心社会システム研究 1(1)：2012.
23. 木村佐枝子、前林清和、舩木伸江：東日本大震災における大学生ボランティアの語り－グラウンデッド・セオリー・アプローチによる分析から－. 社会貢献学研究 1(1)：2013.
24. 木村佐枝子：警察署と大学の協定による地域防犯ボランティアの取り組み　－地域における学生ボランティアの意義－. 人間文化 32：2013.
25. 木村佐枝子、小山ゆう：大学の地域連携による社会貢献活動の教育的意義－正課授業から課外活動へ－. 社会システム論攷 3：2012.
26. 木村佐枝子：地域密着型プロスポーツチームを支える学生ボランティアの役割と課題　―bj リーグ浜松・東三河フェニックス運営ボランティア―. 浜松大学健康プロデュース雑誌 7(1)：2013.
27. 木村佐枝子：経験から学ぶスーパーヴィジョン. 浜松大学臨床心理事例研究 4(1)：2013.
28. 長岡由紀子：「傾聴」を再考する―関わりの中からきこえてくるもの―. 浜松大学臨床心理事例研究 2(1)：23-26, 2011.
29. 長岡由紀子：身体を象徴的に捉えることの限界と可能性. 臨床心理身体運動学研究 13(1)：31-51, 2011.
30. 長岡由紀子：体育学における臨床心理学研究の意義. 博士論文, 2012.

31. 長岡由紀子：ケースカンファレンス―その3時間が成しているもの―. 浜松大学臨床心理事例研究3(1)：27-31, 2012.
32. 長岡由紀子：スポーツ現場の事例研究.　精神療法38(5)：52-59, 2012.
33. 長岡由紀子：「スーパーヴィジョン」を語る前に. 浜松大学臨床心理事例研究4(1)：印刷中, 2013.
34. 押田貴久、仲田康一、武井哲郎、村上純一：学校-家庭･地域の連携に向けた研究者の支援. 日本教育経営学会紀要(53)：92-101, 2011.
35. 仲田康一 :学校運営協議会におけるジェンダーの諸相.日本教育政策学会　日本教育政策学会年報(18):166-180, 2011.
36. 仲田康一、大林正史、武井哲郎：学校運営協議会における保護者／地域住民の活動特性. 日本学習社会学会　日本学習社会学会年報(7)：35-44, 2011.
37. 仲田康一、大林正史、武井哲郎：学校運営協議会委員の属性・意識・行動に関する研究. 琉球大学生涯学習教育研究センター・生涯学習フォーラム(5)：31-40, 2011.
38. 仲田康一：学校運営協議会による保護者啓発の論理と帰結. 日本教育学会・教育學研究78(4)：450-462, 2011.
39. 仲田康一：学校運営協議会の到達点と課題. 日本学習社会学会・日本学習社会学会年報(8)：23-28, 2012.
40. 後藤慎吾:母親に連れられてきた緊張感を訴える男子中学生との面接. 浜松大学臨床心理事例研究3 (1):49-59, 2012
41. 里　大輔:競技力向上の為の学校部活動と地域クラブチームの比較-選手に果たす機能と所属選択の理由の傾向から-. 浜松大学健康プロデュース雑誌6 (1)：93-103, 2012.
42. 山本清文、井口睦仁、真鍋和親、里　大輔、山田雅俊：カレッジバスケットボールにおけるストレッチング効果及び考察. 浜松大学健康プロデュース雑誌6 (1)：49-58, 2012.

4）　報告

1. 菊本智之「武道必修化の課題と『かた』を導入した教材の提案」東海体育学会(85)：9-10, 2012.
2. 杉江正敏（委員長)、榎本鐘司、太田順康、大坪　壽、木原資裕、境　英俊、湯浅　晃、菊本智之（幹事)「静岡県剣術資料報告　―明治・大正期の同県県道人物史と牧之原開拓士族の検討―」全日本剣道連盟：1-48, 2012.
3. 中島登代子、柴田俊一、長岡由紀子、古谷学、前田　正、木村佐枝子他：表現療法としてのミュージカルの可能性－音楽座ミュージカルの現場.　健康プロデュース雑誌 7(1):　(印刷中）共著
4. 佐野村　学：国際オリンピック委員会によるスポーツ傷害に向けた取り組み. 北京オリンピック競技大会の傷害調査報告. JATI EXPRESS（日本トレーニング指導者協会機関誌）30：20-21, 2012.
5. 長岡由紀子, 山本清文, 吉田早織, 古谷　学, 竹内修二：心身マネジメント学科における広報活動の取り組み―新入生へのアンケート調査から―. 健康プロデュース雑誌5(1)：83-91, 2011.
6. 木村佐枝子：警察署と大学の協定による地域防犯ボランティアの取り組み　－地域における学生ボランティアの意義－. 人間文化(31)：75-76, 2012.
7. 木村佐枝子：書評　夢みる防災教育. 浜松大学健康プロデュース雑誌6(1)：2012.
8. 木村佐枝子：東日本大震災におけるHUVOC隊の活動について. 浜松大学HUVOC報告集2011, 2012.
9. 古谷　学・木村佐枝子：被災地におけるこころとからだのケア. 大学ネットワーク静岡共同授業公開講座・大震災におけるストレス解消法報告書. 富士常葉大学総合経営学部・静岡ストレス解消法プロジェクト：62-64, 2013.
10. 木村佐枝子：書評　ひまわりのおか. 浜松大学健康プロデュース雑誌7(1)：2013.

11. 木村佐枝子：北区わくわく元気プロジェクト　地域防犯. 浜松大学 HUVOC 報告集 2012, 2013.
12. 木村佐枝子：北区わくわく元気プロジェクト 北区クリーンアップウォーキング. 浜松大学 HUVOC 報告集 2012, 2013.
13. 長岡由紀子、山本清文、吉田早織、古谷　学、竹内修二：心身マネジメント学科における広報活動の取り組み―新入生へのアンケート調査から―. 健康プロデュース雑誌 5(1)：83-91, 2011.
14. 長岡由紀子：臨床スポーツ心理学の可能性.（中京大学体育研究所月例研究会報告）中京大学体育研究所紀要 25：81-94、2011.
15. 吉田早織：運動関連低 Na 血症が疑われた大学アメリカンフットボール選手の 1 例. 健康プロデュース雑誌 7(1)：2013（印刷中）
16. 仲田康一　：保護者のクレーム等に対する意識―インタビュー調査から. 日本大学文理学部教育学科佐藤晴雄研究室「保護者の対学校行動とその対応に関する事例調査（科学研究費補助金研究成果報告書（科学研究費 基盤研究（A）保護者-学校間の困難状況解決のためのサポート体制構築に関する学際的・総合的研究)）：31-51, 2011.
17. 仲田康一　：三鷹教育改革フォーラム 2010. 日本学習社会学会　日本学習社会学会年報（7）：1-2, 2011.
18. 佐藤智子、荻野亮吾、仲田康一、汪乃佳：ポスト近代国家におけるシティズンシップ教育の可能性と政策的課題. 東京大学大学院教育学研究科附属学校教育高度化センター「学校における新たなカリキュラムの形成」研究プロジェクト 平成 22 年度 報告書. 135-162, 2011.
19. 青木栄一・仲田康一　：教育委員会調査結果の概要. 日本大学文理学部「平成 23 年度文部科学省委託調査研究 学校運営の改善の在り方に関する調査研究 コミュニティ・スクールの推進に関する教育委員会及び学校における取組の成果検証に係る調査研究報告書」：131-199, 2012.
20. 仲田康一　：コミュニティ・スクール指定校の成果の期待と認識のギャップ分析. 日本大学文理学部「平成 23 年度文部科学省委託調査研究 学校運営の改善の在り方に関する調査研究 コミュニティ・スクールの推進に関する教育委員会及び学校における取組の成果検証に係る調査研究報告書」：203-210, 2012.
21. 佐藤みどり・外岡泉・伊熊志織・香阪知宏・後藤慎吾：平成 23 年度浜松大学臨床心理教育実践センター活動報告. 浜松大学臨床心理事例研究 3（1), 149-153, 2012.

5） 学会発表

1. 菊本智之「老中　真田幸貫にみる為政者の武芸研究の視点と武芸観」日本武道学会第 44 回大会、2011. 9. 1. 国際武道大学
2. 前田　正：ユング派の夢分析. 日本ユング心理学会シンポジウム, 2012. 3. 京都
3. 前田　正：松井華子「タヌキの絵を描いた 40 代女性との面接ースクイグルにおいて何が表現されるのか」指定討論者.　日本ユング心理学会第 1 回大会, 2012. 6.　明治大学
4. 前田　正：織田憲嗣「こころと向き合うことと共時的に技術、身体が変容していった選手の事例」指定討論者. 日本臨床心理身体運動学会第 15 回大会, 2012. 12.　東京成徳大学
5. Maeda T：Jungian psychotherapy for the depressive client -dream analysis, sandplay therapy and picture therapy-. The 3rd International Conference on Expressive Therapy, 2011. 8. Suzhou, China.
6. 前田　正、中島登代子：ユング心理学とスポーツカウンセリングートップアスリートの深層心理ー.　日本ユング心理学会セミナー, 2011. 3. 東京
7. 前田　正：近藤進「屋久島におけるキャンプ構成要素と心理的効果」指定討論者.　日本臨床心理身体運動学会第 14 回大会, 2011. 12. 北海道教育大学函館校

8. Hoshikawa H., Yoshida S. and Miyamura T.: “The effect of endurance cycling training on cross-sectional area and strength of thigh muscles in human”, ACSM’s 59th Annual Meeting, 29 May - 02 Jun, 2012, USA (San Francisco)
9. Furutani M：Narrative therapy for schizophrenic client.The 3rd International Conference on Expressive Therapy, 2011.8.Suzhou China(oral)
10. 古谷　学, 長岡由紀子：心理系学部授業における芸術表現活動の意義（1）－授業への導入から質問紙調査における分析－. 日本心理臨床学会第30回大会発表, 2011.9.福岡国際会議場（ポスター）
11. 古谷　学、長岡由紀子：心理系学部授業における芸術表現活動の意義（2）－作品と内省報告からみる事例的分析－. 日本心理臨床学会第30回大会発表, 2011.9.福岡国際会議場（ポスター）
12. 古谷　学, 長岡由紀子：効果的なテストバッテリーの構築に関する基礎的研究（1）－YG性格検査とTEGにおける相関分析から－. 日本心理臨床学会第31回大会発表, 2012.9.愛知学院大学（ポスター）
13. 星川秀利、沢崎健太、宮村　司、小林良充：激運動後の血中乳酸濃度及び心拍数に及ぼす皮膚刺激の影響. 第23回日本臨床スポーツ医学会学術集会、2012.11.神奈川県（横浜）
14. 星川秀利、沢崎健太、中澤寛元、有馬義貴、吉田早織、宮村　司：微小突起による反応刺激が激運動後の血中乳酸濃度に及ぼす影響. 全日本鍼灸学会学術大会三重大会、2012.6. 三重県（四日市）
15. 沢崎健太、中澤寛元、吉田早織、眞鍋和親、宮村　司、星川秀利、有馬義貴：スポーツ現場における刺さない鍼の使用感に関するアンケート調査―国際テニス大会トレーナー活動を通して―. 全日本鍼灸学会学術大会三重大会、2012.6. 三重県（四日市）
16. 有馬義貴、沢崎健太、中澤寛元、木村啓作、星川秀利：簡便型押圧式生体軟部組織硬度計の比較. 全日本鍼灸学会学術大会三重大会、2012.6. 三重県（四日市）
17. Sanomura M. Irie K：Relationship between leg and foot alignment and dynamic knee valgus during single-leg squat, single-leg drop landing and cutting tasks. The 3rd IOC World Conference on Prevention of Injury and Illness in Sport, 2011, Monaco.
18. Sanomura M. Sakaguchi M. Saho Y. Fukubayashi T：Difference in knee joint mechanics during cutting with and without a lacrosse stick. The 5th International Sport Sciences Symposium on “Active Life”. Global COE Program “Sport Sciences for the Promotion of Active Life”, 2011, Tokyo, Japan.
19. 佐野村 学, 細川由梨, 中村千秋, 福林 徹：大学女子ラクロス競技における前向き傷害調査. 第22回 日本臨床スポーツ医学学術集会, 青森, 2011.
20. 佐野村 学, 阪口正律, 佐保泰明, 福林徹：ラクロススティック保持の有無がカッティング動作時の膝キネマティクスに及ぼす影響. 第38回日本臨床バイオメカニクス学会, 神戸, 2011.
21. Sanomura M. Sakaguchi M. Saho Y. Fukubayashi T：Lower extremity joint kinematics and kinetics during a drop jump task with and without a lacrosse stick. The 6th International Sport Sciences Symposium on “Active Life”. Global COE Program “Sport Sciences for the Promotion of Active Life”, 2012, Tokyo, Japan.
22. Saho Y. Sanomura M. Nakamura C. Fukubayashi T：Knee biomechanics during side-step maneuvers in anticipated and unanticipated conditions. The 6th International Sport Sciences Symposium on “Active Life”. Global COE Program “Sport Sciences for the Promotion of Active Life”, 2012, Tokyo, Japan.

23. Yanagisawa O. Sanomura M. Fukubayashi T : Effects of low-intensity resistance exercise with blood flow restriction on high-energy phosphate metabolism and tissue oxygenation in human skeletal muscle. The 6th International Sport Sciences Symposium on “Active Life”. Global COE Program “Sport Sciences for the Promotion of Active Life”, 2012, Tokyo, Japan.
24. Sanomura M. Sakaguchi M. Saho Y. Fukubayashi T : Hip and knee joint mechanics during cutting maneuver with and without a lacrosse stick. The 59th ACSM Annual Meeting and 3rd World Congress on Exercise is Medicine, 2012, San Francisco, California.
25. Sanomura M. Sakaguchi M. Saho Y. Fukubayashi T : Differences in lower extremity joint kinematics and kinetics during drop vertical jumps with and without a lacrosse stick. The 17th Annual congress of the ECSS, 2012, Bruges, Belgium.
26. Yanagisawa O. Sanomura M. Fukubayashi T: Effects of flow restriction during low-intensity resistance exercise on high-energy phosphate metabolism and tissue oxygenation in skeletal muscles. The 17th Annual congress of the ECSS, Bruges, Belgium, 2012.
27. Saho Y. Fukubayashi T. Sakaguchi M. Sanomura M. Nakamura C:Knee biomechanics during side-step maneuver in anticipated and unanticipated conditions. The 17th Annual congress of the ECSS, Bruges, Belgium, 2012.
28. 佐保泰明, 佐野村 学, 中村千秋, 福林 徹 : 非予測条件下におけるサイドステップ動作が膝関節運動に与える影響. 第 23 回 日本臨床スポーツ医学学術集会, 横浜, 2012.
29. 木村佐枝子、前林清和、舩木伸江 : 東日本大震災における大学生のボランティア活動―被災地ボランティアの語り―. 第 2 回社会貢献学会, 神戸学院大学, 2011.12
30. 木村佐枝子 : 警察署と大学の協定による地域防犯ボランティアの取り組みー地域における学生ボランティアの意義ー. 第 7 回人文学会研究会, 神戸学院大学, 2012.3
31. 木村佐枝子、前林清和、江田英里香 : 大学におけるソーシャルキャピタルの意義―地域と共生する大学づくり全国縦断熟議を事例として―. 第 3 回社会貢献学会, 東北福祉大学, 2012.11.
32. Nagaoka Y :Drawing Psychotherapy for a Diabetic Client.The 3rd International Conference on Expressive Therapy, 2011.8.7 (oral)
33. 長岡由紀子, 古谷学 : 心理系学部授業における芸術表現活動の意義 (3) ー作品の制作過程からみる受講学生の内的体験についてー. 日本心理臨床学会第 31 回大会発表, 2012.9.愛知学院大学 (ポスター)
34. 吉田早織 : 大学アメリカンフットボール選手における脳浮腫を伴う低ナトリウム血症の一例、第 20 回よこはまスポーツ整形外科フォーラム、2012.6. パシフィコ横浜
35. 仲田康一 : 学運営協議会の到達点と課題. 日本学習社会学会第 8 回大会, 2011.9.
36. 押田貴久、仲田康一、大桃敏行 : 自治体独自のカリキュラム開発―教育課程特例校に焦点を当てて. 日本教育政策学会第 19 回大会, 2012.7.
37. 梅澤希恵、木場裕紀、讃井康智、町支大祐、仲田康一、押田貴久、武井哲郎、村上純一、大桃敏行 : 自治体独自カリキュラムの実施に対する校長・教員の認識―教育課程特例校への質問紙調査から. 日本教育学会第 71 回大会, 2012.8.
38. 荒井英治郎、仲田康一、武井哲郎、村上純一 : 東日本大震災における東北 3 県の学校対応―平成 23 年度文部科学省委託調査の結果を踏まえて. 日本教育行政学会第 47 回大会, 2012.10.
39. 後藤慎吾 : 孤独感を訴える女性との面接. 日本臨床心理身体運動学会第 14 回大会, 2011.

6） 外部資金獲得状況

1. 菊本智之（研究代表者）、科学研究費補助金、基盤研究（C）、平成23年度、徳川政権における幕閣の武芸思想と武芸政策に関する文献学的研究、1,560千円
2. 菊本智之（研究代表者）、科学研究費補助金、基盤研究（C）、平成24年度、徳川政権における幕閣の武芸思想と武芸政策に関する文献学的研究、1,040千円
3. 委託研究、2012 年度、「非侵襲性皮膚刺激ツールが無酸素および有酸素パワーと安静回復中の生理学的パラメータに及ぼす影響」、有馬義貴、沢崎健太、中澤寛元、星川秀利、吉田早織、宮村　司、深澤　聡、100千円
4. ThunderBirds（顧問：木村佐枝子）：平成24年度はましん地域振興財団助成金事業名：みんなで守ろう！地域の安心・安全見守り隊助成決定額：100千円
5. 仲田康一（研究代表者）．科学研究費補助金，特別研究員奨励費，平成23年度．学校ガバナンスの民主性問題と教育委員会・理論構築とマルチサイトケーススタディ，800千円
6. 仲田康一（研究代表者）．科学研究費補助金，研究活動スタート支援，平成24年度．普及期における学校運営協議会の課題に関する学校及び教育委員会の対応．1,300千円

7） 学会以外の講演等

1. 竹内修二：健康に年齢を重ねるために　なぜ足腰が弱るのか考えましょう！　現状維持のために行いましょう、運動を！　平成24年度北区自治会連合会研修会、2012．6．浜名湖レークサイドプラザ
2. 前田　正：職場のメンタルヘルス対策と管理・監督者の役割．　静岡県教育委員会・新任管理者メンタルヘルス研修会，2012.9.　静岡
3. 古谷　学：教員免許状更新講習（選択講習）講師「現場教員のための臨床心理技法」浜松、2012.8.
4. 古谷　学・木村佐枝子：「被災地におけるこころとからだのケア」，大学ネットワーク静岡共同授業公開講座・大震災におけるストレス解消法（第3回），クリエート浜松（大ホール），2011.12.
5. 木村佐枝子：「自分の明日が変わるとき」～今だからこそ考える、自分流の生き方～．社会貢献から学ぶ人生を豊かにする生き方　～win－win の社会を目指して～，第20回浜松市民アカデミー，アクトシティ浜松研修交流センター，2012.9.
6. 吉田早織：アメリカンフットボールでの取り組み～U-19日本代表トレーナーの立場から～、Concussionースポーツにおける脳振盪ー早稲田大学スポーツ科学学術院　GCOE「アクティブライフを創造するスポーツ科学」サテライトミーティング、2013.2．早稲田大学.

8） その他

1. 竹内修二：からだおもしろクイズ、ちゃぐりん48(5)～49(4)：各号145-146，家の光協会，2011－2012.
2. 竹内修二：読者のなぜなぜ調査隊　第４回、ちゃぐりん49(8)：160-163，家の光協会，2012.
3. 竹内修二：読者のなぜなぜ調査隊　第９回、ちゃぐりん50(1)：160-163，家の光協会，2013.
4. 竹内修二：からだの名前を知る、ほけんニュース（342）付録：1-4，少年写真新聞，2012.
5. 竹内修二：食べ物の行方を探る～消化された栄養素はどこへいく？～、給食ニュース（1553）付録、1，少年写真新聞，2012.
6. 前田　正：グループ・スーパーヴィジョンのスーパーヴァイザー．　日本ユング心理学会，　2011，2012年度
7. 前田　正：メンタルヘルス相談事業担当医．　静岡県教育委員会，　2011，2012年度

8. 前田　正：ユングの夕べ講師.　アーツセラピー研究所,　2011, 2012 年度
9. [事例研究発表]古谷　学：「性同一性障害の女性との面接過程Ⅱ」溪蓀塾心理教育相談室第 156 回事例研究会（日本臨床心理士資格認定協会定例型研修会承認番号：421256 号)、浜松、2011.7.
10. [事例研究発表]古谷　学：「女性の人生の後半の課題について考える事例」溪蓀塾心理教育相談室第 170 回事例研究会（日本臨床心理士資格認定協会定例型研修会承認番号：230083 号)、浜松、2012.10.
11. 佐野村　学ほか：第 23 回日本臨床スポーツ医学会学会賞受賞（平成 24 年 11 月 3 日）. 受賞論文：大学女子ラクロスにおける前向き傷害調査. 日本臨床スポーツ医学会誌 20(3)：460-468, 2012.
12. オレオレ詐欺防犯 DVD 制作監修：細江警察署　企画：ThunderBirds（顧問：木村佐枝子）制作　浜松大学木村ゼミ（担当教員：木村佐枝子）　映像制作：浜松大学映像部「教えます、振り込め詐欺の手口！」～みんなこうして騙される～　2012. 10.
13. [学会賞受賞]佐野村　学：第 23 回日本臨床スポーツ医学会学会賞受賞（平成 24 年 11 月 3 日）. 受賞論文：細川由梨, 中村千秋, 福林　徹:大学女子ラクロスにおける前向き傷害調査. 日本臨床スポーツ医学会誌 20(3):460-468, 2012.
14. 絵本教材作成（カンボジア識字教材）にほんのあそび, C&J レインボーブックプロジェクト, 木村ゼミ（担当教員：木村佐枝子）2012. 1.
15. [事例研究発表]長岡由紀子：「「彼氏の元カノのことが気になる」と訴える女性との面接」溪蓀塾心理教育相談室第 150 回事例研究会（日本臨床心理士資格認定協会定例型研修会承認番号：421256 号)、浜松、2011.1.
16. [事例研究発表]長岡由紀子：　「「精神的に不安定で困る」と訴える女性との面接」. 溪蓀塾心理教育相談室第 157 回事例研究会（日本臨床心理士資格認定協会定例型研修会承認番号：421256 号)、浜松、2011.8.
17. [事例研究発表]長岡由紀子：　「落ち込みや気分の浮き沈みを訴える女性との面接」浜松大学臨床心理実践センター第 3 回たちばな事例研究会、浜松、2012.2.
18. [事例研究発表]長岡由紀子：「自分の中の「違和感」を語る女性との面接」溪蓀塾心理教育相談室第 163 回事例研究会（日本臨床心理士資格認定協会定例型研修会承認番号：230083 号)、浜松、2012.3.
19. [事例研究発表]長岡由紀子：「「結局、自分はどうしたらいいのか」という女性との面接」. 溪蓀塾心理教育相談室第 167 回事例研究会（日本臨床心理士資格認定協会定例型研修会承認番号：230083 号)、浜松、2012.7.
20. 長岡由紀子：ピンクの蝶に導かれて－日本臨床心理身体運動学会第 13 回大会に参加して. SPACE No.27（日本臨床心理身体運動学会機関紙)、2011.3.
21. 長岡由紀子：第 40 回学会研修会に参加して. SPACE No.28（日本臨床心理身体運動学会機関紙)、2011.3.
22. 仲田康一　『2013 年度教員採用試験直前予想問題 738』, 協同出版, 分担作問（pp.38-41, 50-51), 2012.

健康鍼灸学科

1）著書

1. 王暁明，廖世新，村上高康，浦田繁，中澤寛元，武田充史：○×トライアル東洋医学臨床論「整形外科、産婦人科、小児科編」，医歯薬出版，東京，平成23年5月．共著
2. 有馬義貴，森洋平：日本鍼灸の診断学．メディカルユーコン，京都，平成23年6月．共著
3. 向野義人 監修，沢崎健太：図解　M-Test．pp39-60，pp76-77，pp89-102，医歯薬出版，東京，平成24年3月．分担著
4. 向野義人，松本美由季 編，沢崎健太：スポーツ鍼灸ハンドブック―M‐Testによる経絡運動学的アプローチ　第2版．　pp9-17，pp32，pp117-122，文光堂，東京，平成24年12月．分担著

2）総説

1. 平成22・23年度 厚生労働科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業「統合医療を推進するための日本伝統医学の標準化」研究班 編集，沢崎健太：日本伝統医学テキスト 鍼灸編．「統合医療を推進するための日本伝統医学の標準化」研究班編集，pp139-142，pp251-252，平成24年10月．分担著

3）原著論文

1. 中澤寛元，島村元，有馬義貴，村瀬智一，沢崎健太：筋疲労が経絡に及ぼす影響．日本東方医学雑誌27(1)：39-45，2011．
2. 有馬義貴，沢崎健太，中澤寛元，和歌秀典，木村啓作，吉岡一実，内藤恭久：肩こり解消法の研究．健康プロデュース雑誌（浜松大学）6(1)：37-40，2012．
3. 有馬義貴，中澤寛元，沢崎健太，和歌秀典，木村啓作，真鍋和親，内藤恭久：マンガの社会学：鍼灸・柔道整復の社会認知．健康プロデュース雑誌（浜松大学）6(1)：25-35，2012．
4. 内藤恭久，有馬義貴，沢崎健太，中澤寛元：DERMATAN SULFATE ENHANCES CELL GROWTH AND DIFFRENTIAL PRODUCTION OF VARIOUS CELL GROWTH FACTORS BY　SKIN FIBROBLASTS．健康プロデュース雑誌（浜松大学）6(1)：15-24，2012．
5. 星川秀利，沢崎健太，有馬義貴，中澤寛元，里大輔，吉田早織，宮村司，田中誠一：微小突起による皮膚刺激が激運動後の血中乳酸濃度に及ぼす影響．日本東方医学雑誌28(2)：45-54，2012．
6. Yasuhisa NAITO，Yoshitaka ARIMA，Kenta SAWAZAKI，Hiroyuki NAKAZAWA，Itaru FUJITA，Hiroyuki ENDO and Kiyoshi KOBAYASHI　：The Role of Glycosaminoglycans in Wound Healing，with Special Reference to Effects of Dermatan Sulfate on Human Dermal Diploid Fibroblasts．Eastern Medicine 28(3)：1-12，2012．
7. 有馬義貴、沢崎健太、中澤寛元、村上高康、吉岡一実、藤田格、内藤恭久、福世泰史：円筒灸・箱灸の温度曲線．健康プロデュース雑誌（浜松大学）7(1)：印刷中，2013．
8. 藤田格、有馬義貴、内藤恭久、沢崎健太、中澤寛元、福世泰史：はり師　きゅう師国家試験合格と高校評定との関係．健康プロデュース雑誌7(1)：印刷中，2013．
9. 吉岡一実、一ノ山隆司、石井秀美、大川智恵子、菊地淳、有馬義貴、松浦純平、吉岡多美子：異なる血圧測定技術教育方法による技術習得状況の違い．医学と生物学157(3)　：313-318，2013．

4）報告

1. 有馬義貴，中澤寛元，村上高康，村瀬智一，小笠原千絵，沢崎健太，藤田格，内藤恭久，福世泰史：灸実技授業の検討～箱灸の効果～．日本東方医学雑誌 28(2)：27-31, 2012.
2. 郭義，鈴木聡，高木健，中澤寛元：海外における鍼灸教育事情 1 中国編 1，医道の日本 70（9）．129-136．2011 年 9 月．
3. 郭義，鈴木聡，高木健，中澤寛元：海外における鍼灸教育事情 2 中国編 2，医道の日本 70（10）．85-89．2011 年 10 月．
4. 郭義，鈴木聡，高木健，中澤寛元：海外における鍼灸教育事情 3 中国編 3，医道の日本 70（11）．128-134．2011 年 11 月．
5. 郭義，鈴木聡，高木健，中澤寛元：海外における鍼灸教育事情 4 アメリカ編 1，医道の日本 71（10）．100-104．2012 年 10 月．
6. 郭義，鈴木聡，高木健，中澤寛元：海外における鍼灸教育事情 5 アメリカ編 2，医道の日本 71（12）．159-165．2012 年 12 月．

5）学会発表

a) シンポジウム

1. 中澤寛元，有馬義貴：レーザーの経穴照射の文献調査報告ならびに経穴と非経穴の反応性．第 24 回日本レーザー治療学会．平成 24 年 6 月，千葉．
2. 有馬義貴，渡邉康晴，木村啓作，犬塚博，斉藤久男：生体表面の硬さの客観化と硬結．第 21 回日本柔道整復接骨医学会フォーラム画像解析分科委員会．平成 24 年 11 月，博多．

b) 一般演題

1. 有馬義貴，沢崎健太，中澤寛元，渡辺信博，堀田晴美：刺さない鍼が局所皮膚血流に及ぼす影響　～はり刺激，きゅう刺激との比較～．第 60 回全日本鍼灸学会学術集会，平成 23 年 6 月，東京．
2. 木村啓作，渡邉康晴，片山憲史，有馬義貴，宮原正人：体表から得られる硬さ変化要因(7)．第 60 回全日本鍼灸学会学術集会，平成 23 年 6 月，東京．
3. 王暁明，廖世新，中澤寛元，浦田繁，武田充史：フォルマリンテスト疼痛に対する鍼刺激と薬剤鎮痛との比較研究．第 60 回全日本鍼灸学会学術集会，平成 23 年 6 月，東京．
4. 有馬義貴，沢崎健太，中澤寛元，木村啓作，星川秀利：簡便型押圧式生体軟部組織硬度計の比較．第 61 回全日本鍼灸学会学術集会，平成 24 年 6 月，三重．
5. 木村啓作，渡邉康晴，片山憲史，有馬義貴，矢野忠：硬さ情報の客観化(8)．第 61 回全日本鍼灸学会学術集会，平成 24 年 6 月，三重．
6. 中澤寛元，王暁明，沢崎健太，有馬義貴：鎮痛発現における中脳水道周囲灰白質の関与について．第 61 回全日本鍼灸学会学術集会，平成 24 年 6 月，三重．
7. 沢崎健太，中澤寛元，吉田早織，真鍋和親，宮村司，星川秀利，有馬義貴：スポーツ現場における刺さない針の使用感に関するアンケート調査ー国際テニス大会トレーナー活動を通してー．第 61 回全日本鍼灸学会学術集会，平成 24 年 6 月，三重．

8. 星川秀利，沢崎健太，中澤寛元，有馬義貴，吉田早織，宮村司：微小突起による反応刺激が激運動後の血中乳酸濃度に及ぼす影響．第61回全日本鍼灸学会学術集会，平成24年6月，三重.
9. 星川秀利，沢崎健太，宮村司，小林良充：激運動後の血中乳酸濃度及び心拍数に及ぼす皮膚刺激の影響.第23回日本臨床スポーツ医学会学術集会.平成24年10月.横浜.

6）外部資金獲得状況

1. 有馬義貴，沢崎健太，中澤寛元，宮村司，星川秀利，吉田早織：東洋レヂン株式会社委託研究，平成22年度．膚刺激ツールが局所皮膚血流に及ぼす影響～はり刺激，きゅう刺激との比較検討～．100千円.
2. 有馬義貴，沢崎健太，中澤寛元：セイリン株式会社委託研究，平成23年度．市販の滅菌済み単回使用毫鍼の品質比較検討．200千円.
3. 有馬義貴，沢崎健太，中澤寛元，宮村司，星川秀利，吉田早織：東洋レヂン株式会社委託研究費，平成24年度．非侵襲性皮膚刺激ツールが無酸素および有酸素パワーと安静回復中の生理学的パラメータに及ぼす影響．100 千円.

7）学会以外の講演等

1. 有馬義貴：小児鍼の理論と実践．視覚障害者センター臨床技術力講座，平成23年5月27日，国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局塩原視力障害センター.
2. 有馬義貴：風邪が治せる鍼灸師になろう！．公益社団法人静岡県鍼灸マッサージ師会主催静岡県鍼灸学術研修会定期講習会兼社団法人全日本鍼灸学会認定講座．平成23年5月22日．静岡県男女参画センターあざれあ.
3. 有馬義貴：In vivoにおける生体表面硬さ情報の研究ー硬結検出の可能性についてー．筋痛合宿．平成23年8月9日．財団法人美山町自然文化村.
4. 沢崎健太：職業性腰痛に対するM-Testの活用．ケア・ワークモデル研究会　第5回学術総会．平成23年9月4日．福岡大学.
5. 有馬義貴：鬱と東洋療法．静岡県民健康フェスタ東洋療法セミナー．平成23年10月23日．浜松市福祉交流センター.
6. 内藤恭久：人体解剖学（人体系統解剖学）実習見学の指導．静岡県鍼灸師会　西部支部　学術研修会．平成23年11月3日．浜松医科大学.
7. 沢崎健太：産業分野における鍼灸の活用について．全日本鍼灸学会中部支部指定研修B講座三重会場．平成23年11月27日．鈴鹿医療科学大学JART記念館.
8. 中澤寛元：新しい鍼のかたち．静岡県鍼灸学術研修会定期講習会　全日本鍼灸学会中部支部認定研修B講座静岡会場．平成24年1月22日．静岡県教育会館.
9. 沢崎健太：スポーツ・健康産業分野における鍼灸の可能性について．静岡県鍼灸学術研修会定期講習会　全日本鍼灸学会中部支部認定研修B講座静岡会場．平成24年1月22日．静岡県教育会館.
10. 中澤寛元：ストレスケア．静岡県の健康つくり事業　清水特別支援学校職員健康講座，平成24年2月17日．静岡県立清水特別支援学校.
11. 内藤恭久：痛みについて．社団法人静岡鍼灸師会　学術講習会．平成24年3月4日．浜松音楽博物館.
12. 沢崎健太：M-Testの基本的な原則と治療手順．ケア・ワークモデル研究会　第6回学術総会．平成24年9月9日10日．福岡大学.

13. 有馬義貴：東洋医学を暮らしに活かそう．浜松市都田地区健康フェア北区わくわく健康プロジェクト．平成 24 年 9 月 29 日．みをつくし文化センター.
14. 有馬義貴：ストレスと免疫・免疫力アップの東洋療法．静岡県民フェスタ東洋療法セミナー．平成 24 年 10 月 28 日．浜松市福祉交流センター.
15. 有馬義貴：腰痛症に対する触診法と治療法．公益社団法人静岡県鍼灸マッサージ師会主催東洋療法セミナー．平成 24 年 11 月 25 日．静岡県教育会館.
16. 有馬義貴：学生、教職員への対応に活かせる東洋医学．全国大学保健管理協会東海・北陸地方部会　保健管理担当職　第 52 回静岡県地区研究会．平成 25 年 1 月 8 日．静岡大学浜松キャンパス.
17. 中澤寛元：脳内微小透析法を用いた経穴の部位特異性についての研究．第 24 回浜松大学教職員研修会　特別教育研究発表．平成 25 年 2 月 21 日．浜松大学.
18. 沢崎健太：皮膚刺激ツール（マイクロコーン）におけるスポーツ選手に対する有用性の検討．第 24 回浜松大学教職員研修会　特別教育研究発表．平成 25 年 2 月 21 日．浜松大学.
19. 中澤寛元：日常生活で役立つツボ健康法．第 24 回浜松大学教職員研修会　健康増進ポイント講座．平成 25 年 2 月 21 日．浜松大学.

8）その他

a)マスコミ発表

1. 有馬義貴：秋の冷え対策．SBS イブニング eye，SBS 静岡放送．平成 24 年 10 月 18 日 16 時 45～17 時 15 分.

b)書評等

1. 有馬義貴：東洋医学の教育と研究．健康プロデュース雑誌（浜松大学）6(1)：140-141, 2012.
2. 内藤恭久：「解剖学の抜け穴―解剖学教室の講義余録から―」橋本一成著、2009 年、フリープレス刊行（星雲社）．健康プロデュース雑誌 7（1）：印刷中，　2013.

c)展示

1. 有馬義貴，沢崎健太，中澤寛元：刺さない鍼の研究．富士山麗産学官金連携フォーラム 2012．平成 24 年 3 月 6 日，アンジェ・ヴィラージュブケ東海沼津.

健康柔道整復学科

1）著書

1. 山田雅敏：女と男のコミュニケーション 性差を意識する・教養演習.アイザック AD, 2011. 単著
2. 山田雅敏：実践マルチメディア　作品から学ぶデジタルコンテンツの世界, ウェーブ, 2012. 単著
3. 恒川秀紀, 白﨑孝則, 柏﨑保昌：Podiatry　足病学(改定第 3 版).　一般社団法人日本ポダイアトリー協会編, 2012. 共著

2）原著論文

1. 安藤勝志：微熱教室 - 表現教育における集団指導体制 - . 解釈 57(663)：45-55, 2011.
2. 星川秀利, 沢崎健太, 有馬義貴, 中澤寛元, 里大輔, 吉田早織, 宮村司, 田中誠一：微小突起による皮膚刺激が激運動後の血中乳酸濃度に及ぼす影響. 東方医学 (Eastern Medicine) 28(2):45-54, 2012.
3. 山田雅敏, 北村史, 保崎則雄：性差の視点におけるバスケットボール試合映像視聴時の視線運動分析による視聴パターンの解析. 浜松大学健康プロデュース雑誌　5(1):47-58, 2011.
4. 山本清文, 山田雅敏, 井口睦仁, 眞鍋和親：女子カレッジバスケットボールにおけるストレッチングプログラムの効果と考察　山本清文式ストレッチング理論を取り入れて. 浜松大学健康プロデュース雑誌 5(1):59-71, 2011.
5. 井口睦仁, 山田雅敏：競技における大学生の筋力トレーニング価値志向性の要因に関する研究. 浜松大学健康プロデュース雑誌　5(1):1-11, 2011.
6. 小山ゆう, 山田雅敏：浜松大学女子バスケットボール選手の栄養摂取状況について. 浜松大学健康プロデュース雑誌　5(1):31-37, 2011.
7. 山田雅敏, 砂子岳彦：女子チームスポーツを指導する男性コーチのためのコーチングの提言. 浜松大学研究論集 24(1):149-154, 2012.
8. 山田雅敏：学科ホームページに関する評価尺度の再開発並びに因子分析. 浜松大学健康プロデュース雑誌 6(1):119-127, 2012.
9. 山本清文, 井口睦仁, 眞鍋和親, 里大輔, 山田雅敏：カレッジバスケットボールにおけるストレッチング効果及び考察　2011 年度 山本清文式理論を取り入れて. 浜松大学健康プロデュース雑誌 6(1):49-58, 2012.
10. 有馬義貴, 中澤寛元, 沢崎健太, 和歌秀典, 木村啓作, 眞鍋和親, 内藤恭久：マンガの社会学：鍼灸・柔道整復の社会認知. 浜松大学健康プロデュース雑誌　6 (1)：25-35, 2012.

3）報告

1. 宮村司, 吉田早織, 真鍋和親, 沢崎健太, 中澤寛元, 小林良充：国際女子テニストーナメントにおけるトレーナー活動報告　-ルール規定に見られるサポートの問題点-. 東海スポーツ傷害研究会会誌　30:43, 2012.

4）学会発表

a）特別講演

1. 安藤勝志：表現教育における集団指導体制.　2011 年解釈学会全国大会,　2011 年 8 月 23 日, 立命館大学衣笠キャンパス.

b）一般演題

1. 小田敏明, 横田貞記 : 細胞質におけるタンパク質環境監視装置としての誘導性小胞体. 第 84 回日本生化学会大会, 2011 年 9 月 21-24 日, 京都.
2. 小田敏明, 横田貞記 : 発現させたタンパク質の質（構造）と量に依存した新規小胞体の誘導. 第 85 回日本生化学会大会, 2012 年 12 月 14-16 日, 福岡.
3. 宮村司, 吉田早織, 真鍋和親, 沢崎健太, 中澤寛元, 小林良充 : 国際女子テニストーナメントにおけるトレーナー活動報告 -ルール規定に見られるサポートの問題点-. 東海スポーツ傷害研究会, 2012 年 2 月 25 日, 名古屋.
4. 宮村司, 吉田早織, 星川秀利 : SUP（Stand Up Paddleboard）による健康づくりの可能性 -浜名湖 SUP プロジェクトの実践活動報告-. 第 1 回日本健康運動指導士学術集会・静岡県健康運動士会総会, 2012 年 3 月, 浜松.
5. 星川秀利, 宮村司, 吉田早織 : The effect of endurance cycling training on cross sectional area and strength of thigh muscles in human. ACSM Annual Meeting, May 29-June 2, 2012, San Francisco, CA, USA.
6. 星川秀利, 沢崎健太, 有馬義貴, 中澤寛元, 宮村司 : 微小突起による反応刺激が激運動後の血中乳酸濃度に及ぼす影響について. 全日本鍼灸学会, 2012 年 6 月 8-10 日, 三重.
7. 沢崎健太, 有馬義貴, 中澤寛元, 星川秀利, 吉田早織, 宮村司 : スポーツ現場における刺さない鍼の使用感に関するアンケート調査～国際テニス大会トーナメントトレーナー活動を通して～. 全日本鍼灸学会, 2012 年 6 月 8-10 日, 三重.
8. 星川秀利, 沢崎健太, 宮村司 : 微小突起による皮膚刺激が激運動後の血中乳酸濃度に及ぼす影響. 日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2012 年 11 月 3 日～4 日, 横浜.
9. 山田雅敏 : 学科ホームページに関する評価尺度の開発と因子分析, 日本社会心理学会第 52 回大会, 2011 年 9 月, 名古屋.
10. 小山ゆう, 山田雅敏 : 大学女子バスケットボール選手の栄養摂取状況. 第 58 回日本栄養改善学会学術総会, 2011 年 9 月. 広島.
11. 山田雅敏 : 女子スポーツチームを指導する男性コーチのためのコーチングの提言. 第 1 回日本健康運動指導士学術集会・静岡大会, 2012 年 3 月, 浜松.
12. 小山ゆう, 山田雅敏 : 浜松大学女子バスケットボール選手における栄養摂取状況, 第 1 回日本健康運動指導士学術集会・静岡大会, 2012 年 3 月, 浜松.
13. 平野幸伸, 青田安史, 櫻井博紀, 山本武, 井口睦仁, 山田雅敏 : 睡眠衛生指導によるパフォーマンス変化. 第 1 回日本健康運動指導士学術集会・静岡大会, 2012 年 3 月, 浜松.
14. 山本武, 平野幸伸, 青田安史, 櫻井博紀, 井口睦仁, 山田雅敏 : 筋収縮による筋・筋膜連結の検討, 第 1 回日本健康運動指導士学術集会・静岡大会, 2012 年 3 月, 浜松.
15. 眞鍋和親, 沢崎健太, 中澤寛元, 吉田沙 : スポーツ現場における「刺さない鍼」の使用感に関するアンケート調査（共同発表で「データ集積, マイクロコーン施術」を担当） 第 61 回（社）全日本鍼灸学会学術大会三重大会, 2012 年 6 月, 三重.

5）外部資金獲得状況

1. 沢崎健太, 有馬義貴 中澤寛元, 星川秀利, 吉田早織, 宮村司: 東洋レジン株式会社(平成 24 年度). 皮膚刺激ツールが局所皮膚血流に及ぼす影響. 100 千円.

6）学会以外の講演等

1. 小田敏明：環境としての生物・人間．静岡県西部８大学共同授業「人間と環境　−海・川・山−」第3回目担当，2011年10月22日，浜松.
2. 宮村司：スポーツ傷害と予防，掛川体育協会，掛川総合スポーツクラブ指導者の会，2012年8月1日，掛川.
3. 宮村司：神経筋協調性エクササイズ．日本体育協会ＡＴ養成講習会，2012年10月15日，愛知県阿久比町スポーツ医科学研究所.
4. 宮村司：アスレティックトレーニング．日本競輪協会主催．2012年9月28日，伊豆サイクルスポーツセンター.
5. 宮村司：スポーツ傷害とその予防．平成24年度教員免許状更新講習会，2012年8月6−10日，浜松.
6. 山田雅敏：ホームページのアニメーション．平成23年度浜松大学公開講座，2011年12月，浜松.
7. 山田雅敏，眞鍋和親：性差を意識する．平成23年度浜松大学公開講座，「女と男のコミュニケーション」，2011年12月.
8. 山田雅敏，眞鍋和親：女と男のコミュニケーション／性差を意識する．第76回静岡県西部地域子育て支援・乳幼児精神保健研究会，2012年2月.
9. 山田雅敏：自分自身で切り拓く人生！夢を強く追いかけよう！／バスケットボールとの出会いから．浜松市立湖東中学校で講演2012年6月22日.
10. 恒川秀紀：ポダイアトリー（足病学）浜松中日文化センター（3か月修了講習会）2012年4月開講（4/21，5/19，6/16），7月開講（7/23，8/27，9/24），10月開講（10/20，11/17，12/15）.
11. 恒川秀紀：ポダイアトリー（足病学）岡崎中日文化センター（3か月修了講習会）　2012年7月開講（7/23，8/27，9/24）.
12. 恒川秀紀：ポダイアトリー（足病学）豊田中日文化センター（3か月修了講習会）　2012年10月開講（10/27，11/24，12/22）.
13. 恒川秀紀：ポダイアトリー（足病学）講習会（一般社団法人）日本ポダイアトリー協会　2012年6月，7月，12月.
14. 恒川秀紀：足病学：足から健康を考えよう．浜松大学公開講座「健康寿命を延ばそう」（第1回担当）2012年10月17日.
15. 眞鍋和親：マラソンに伴う怪我の治療と予防法．掛川総合スポーツクラブ主催[健康セミナー]　2012年4月.
16. 眞鍋和親：ランニング時に起こる怪我の予防と治療並びにテーピング法．掛川スポーツクラブ「マラソンチャレンジ」　2012年7月7日.

7）その他

a）マスコミ発表

1. 宮村司:「第2回浜名湖ＳＵＰクラシック大会開催」，中日新聞，2012年10月14日.
2. 山田雅敏：「西日本学生バスケット」，デイリースポーツ，2011年5月31日.
3. 山田雅敏：「東海学生女子バスケ 安田主将3ポイント王獲得」，中日新聞，2011年5月10日.
4. 山田雅敏：「東海学生女子バスケ 浜松大の安田3ポイント王」，静岡新聞，2011年5月11日.
5. 山田雅敏：「浜松大学女子バスケットボール部インカレ出場へ ベスト4目指す」，静岡新聞，2012年9月20日.

b) その他の活動

1. 宮村司:北区わくわく元気プロジェクト「クリーンアップウォーキング」　ＡＴゼミ，ヒューボック活動　2012 年 10 月 27 日.
2. 宮村司：第８回浜松市シティーマラソン　（ＡＴゼミ活動としてマスコミ報道）2012 年 2 月 26 日
3. 宮村司: スポーツ傷害の予防を考えよう！ 201 年夢ナビ静岡講義ライブ，12 月 15 日，ツインメッセ静岡.
4. 恒川秀紀，柏﨑保昌，白﨑孝則：足から健康を考えましょう(足病学)．（財)浜松市文化振興財団　浜松科学館事業第 16 回おや！なぜ？横丁サイエンスアベニュー　2012 年 12 月 15・16 日　浜松市科学館.
5. 眞鍋和親：東急ハーベストカップ浜名湖国際女子テニス大会に医療スタッフ（メディカルブースでのテーピング，ストレッチ補助，怪我の治療，試合後の選手ケア）として参加，2011 年 10 月 23-30 日.
6. 眞鍋和親，中村佳央梨：「健康相談と模擬治療」浜松市北区健康フェア，2012 年 9 月 29 日.

保健医療学部

理学療法学科

1）著書

1. 鈴木重行, 平野幸伸, 鈴木敏和：ID 触診術 DVD (2 枚組)　頚部・体幹・上肢編：全編 294 分, 三輪書店, 2011.5. 共著
2. 鈴木重行, 平野幸伸, 鈴木敏和：ID 触診術 DVD　下肢編：全編 117 分, 三輪書店, 2011.5. 共著
3. 山本武:実践 Mook 理学療法プラクティス　脊柱機能の臨床的重要性と上下肢との連関. 嶋田智明・大峰三郎編集, pp79-80, 文光堂, 2011. 分担著

2）総説

1. 筒井祥博：実験病理学の楽しみ：ウイルス性脳障害―サイトメガロウイルスに着目して― . 病理と臨床 ： 29: 643-650, 2011.
2. 筒井祥博：神経変性疾患における神経細胞死に関する最近の知見―特に筋萎縮性側索硬化症を中心に―. 浜松大学保健医療学部医療学部紀要　3(1)： 1-6, 2012.
3. 櫻井博紀, 佐藤純, 舟久保恵美, 牛田享宏:天気と運動器の痛み, Monthly Book Orthopedics 24(5), 203-210, 2011.
4. 櫻井博紀, 牛田享宏：慢性疼痛への理学療法ー筋機能, 理学療法ジャーナル 46(2), 117-122, 2012.
5. 櫻井博紀, 佐藤純, 牛田享宏：運動器慢性疼痛の基礎知識　気象変化との関係, 整形外科 63(8), 740-745, 2012.
6. 縣信秀：機械刺激による筋萎縮軽減の分子メカニズム. 日本基礎理学療法学雑誌. 15 (2) ,3-8, 2011.

3）原著論文

1. Kawasaki H, Kosugi I, Arai H, Iwashita,T, Tsutsui Y: Mouse embryonic stem cell inhibit murine cytomegalovirus infection through a multi-step process. PLosOne Mar 2:6(3): 1-19, e17492 (One line journal).
2. Arai y, Tsuchida T, Kosugi I, Kawasaki H, Meguro S, Kinoshita M, Baba S, Maeda M, Shinmura Y, Tsutsui Y, Iwashita T : Effects of intrapulmonary viral tropism and cytokine expression on the histological patterns of cytomegalovirus pneumonia.Pathology International 62:628-639, 2012.
3. Kageyama Y, Torikai E, Tsujimura K, Kobayashi M. : Involvement of IL-33 in the pathogenesis of rheumatoid arthritis: the effect of etanercept on the serum levels of IL-33. Mod Rheumatol. 22(1):89-93. 2012.
4. 影山康徳, 小林勇人, 加藤紀彦 ： 関節リウマチ患者に対する etanercept と inflximab 投与の血清 IL-23, IL-17 値への影響.　中部リウマチ　41(1) :4-5,2011.
5. 影山康徳, 鳥養栄治, 小林勇人: 関節リウマチ患者に対するインフリキシマブ投与の尿中 N^{ε}-hexanonyl- lysine 値に与える影響. 整形・災害外科　54 (13) :1633-1636, 2011.
6. 影山康徳,鳥養栄治,小林勇人：関節リウマチ培養滑膜細胞に対する光線力学療法の効果.中部整災誌　55(3): 565-566, 2012.
7. 影山康徳：整形外科領域における多血小板血漿療法の現況. 浜松大学保健医療学部紀要 3(1) : 7-15, 2012.

8. 平野幸伸, 山本武：ハンドヘルドダイナモメーターによるヒラメ筋筋力測定の信頼性, 理学療法科学 28(1)：印刷中.
9. Shun Ishikawa, Shogo Okamoto, Yasuhiro Akiyama, Kaoru Isogai, Yoji Yamada, Susumu Hara: Wearable dummy to simulate joint impairment. Model for the discontinuous friction resistance due to arthritis. Proceedings of the 2012 IEEE International Conference on Robotics and Biomimetics,1409-1414,2012.
10. 石川俊, 岡本正吾, 秋山靖博, 磯貝香, 山田陽滋, 原進：運動機能障害を模擬する装着型ダミー　関節症による不連続な摩擦抵抗のモデルとその評価.生活生命支援医療福祉工学系連合大会2012,講演予稿集CD-ROM, GS3-4-4, 2012.
11. 青田安史：理学療法士の認識する対応困難事例に関する調査研究. 浜松大学保健医療学部紀要 2(1)：7-14, 2011.
12. 青田安史, 平野幸伸：理学療法学科学生の新入生と在校生による睡眠習慣及び精神的健康度の比較, 浜松大学保健医療学部紀要 3(1)：25-34, 2012.
13. 青田安史, 平野幸伸, 松村剛志：理学療法士の臨床おける患者への対応に苦慮する因子ー因子分析からー.静岡理学療法ジャーナル24：19-25, 2012.
14. 九戸栄介, 青田安史, 佐藤栄作：整形外科無床診療所の医師へのアンケート調査による運動器リハビリテーションにおける現状と課題. 静岡理学療法ジャーナル24：1-5, 2012.
15. Takahiko Yoshimoto, Kunihiro Eguchi, Hiroki Sakurai, Yusuke Ohmichi, Tatsuyuki Hashimoto, Mika Ohmichi, Atsuko Morimoto, Yoshiko Yamaguchi, Takahiro Ushida, Satoshi Iwase, Junichi Sugenoya, Takao Kumazawa : Frequency components of systolic blood pressure variability reflect vasomotor and cardiac sympathetic functions in conscious rats. Journal of Physiological Science 61, 373-383, 2011.
16. 松原貴子, 下和弘, 長谷川義修, 大道裕介, 櫻井博紀, 吉本隆彦, 森本温子, 山田雄士：長期に改善をみなかった慢性疼痛に運動療法が有効であった６症例. ペインクリニック 32(7), 1059-1064, 2011.
17. Ohmichi Y, Sato J, Ohmichi M, Sakurai H, Yoshimoto T, Morimoto A, Hashimoto T, Eguchi K, Nishihara M, Arai YC, Ohishi H, Asamoto K, Ushida T, Nakano T, Kumazawa T : Two-week cast immobilization induced chronic widespread hyperalgesia in rats. European Journal of Pain 16 (3), 338-348, 2012.
18. 木村佐枝子, 櫻井博紀, 小山ゆう：東日本大震災における大学生のボランティア活動ー浜松大学ＨＵＶＯＣ隊の活動ー. 浜松大学健康プロデュース雑誌 6(1), 117-126, 2012.
19. 水谷みゆき, 鈴木千春, 大道裕介, 櫻井博紀, 森本温子, 西原真理, 牛田享宏, 新井健一, 佐藤純：痛みセンターにおける慢性痛に対する心理療法の適用と有効性. Pain Res. 27(3), 176-188, 2012.
20. 松村剛志, 岩下清子：要介護高齢者における訪問リハビリテーション利用の意味付けの変化ー目標設定のための利用者理解を目指してー. 浜松大学保健医療学部紀要 3(1)：35-44, 2012.

４）報告

1. 筒井祥博： 高齢化と脳機能. 浜松大学保健医療学部紀要　2(1)： 巻頭言, 2011.
2. 青田安史, 平野幸伸：理学療法学生の睡眠衛生と生活習慣についてー通学時間がおよぼす影響ー.リハビリテーション教育研究17：17-18, 2012.
3. 松村剛志, 大渕裕昭：心理社会的閉じこもりに対する訪問リハビリテーション・サービスの影響ー介入による心理的変化の質的分析ー. 静岡理学療法ジャーナル23： 20-27, 2011.

4. 渡邊雅行，松村剛志：「国際理学療法学」「国際作業療法学」に関する学生意識調査．リハビリテーション教育研究 17 ：90-91，2012.
5. 山本武，平野幸伸，青田安史，櫻井博紀，井口睦仁，山田雅敏：測定肢位の違いによる軟部組織の硬度変化について．浜松大学保健医療学部紀要 3(1)，51-56．2012.

5）学会発表

a)一般演題

1. Kawasaki1,H, Kosugi I, Arai, A, Iwashita T, Tsutsui Y. Mouse embryonic stem cells inhibit murine cytomegalovirus infection through a multi-step process. IUSM 2011 (Meetings of the three divisions of the International Union of Microbiological Societies), 2011.9.Sapporo.
2. 小杉伊三夫，河崎秀陽，新井義文，岩下寿秀，筒井祥博：発育脳臨界期の大脳神経細胞におけるサイトメ ガロウイルス感染による樹状突起形成障害．第 100 回日本病理学会総会，2011．4．横浜.
3. 河崎秀陽，小杉三佐夫，新井義文，筒井祥博，岩下寿秀：幹細胞に着目したサイトメガロウイルス感染感受性の解析．第 100 回日本病理学会総会，2011．4．横浜.
4. 河崎秀陽，小杉伊三夫，新井義文，筒井祥博，岩下寿秀：サイトメガロウイルス大脳急性感染期における intergrin-beta 1 発現と感染分布との関係．第 101 回日本病理学会総会，2012．4．東京.
5. 小杉伊三夫，鈴木万幾子，河崎秀陽，新井義文，大月寛郎，筒井祥博，岩下寿秀：サイトメガロウイルス感染胎盤における絨毛血管内皮細胞および間質細胞の解析．第 101 回日本病理学会総会，2012．4．東京.
6. 新井義文，小杉伊三夫，河崎秀陽，岩下寿秀，筒井祥博．サイトメガロウイルス肺炎の病変形成に関する考察．第 101 回日本病理学会総会，2012．4．東京.
7. 河崎秀陽，小杉伊三夫，新井義文，鈴木万幾子，筒井祥博，岩下寿秀：サイトメガロウイルス大脳急性感染期における integurin-beta-1 発現と感染分布との関係．第 52 回日本先天異常学会学術集会，2012．7． 東京.
8. 影山康徳，小林勇人，森下浩治，永房鉄之，鳥養栄治:関節リウマチ患者に対するインフリキシマブ，エタネルセプト投与のサイトカイン，ケモカインカスケードに与える影響。第 84 回日本整形外科学術総会．2011.5．横浜.
9. 影山康徳，鳥養栄治，小林勇人：関節リウマチ培養滑膜細胞に対する光線力学療法（PDT）の効果．第 117 回中部日本整形外科災害外科学会,2011.10．宇部.
10. 藤木通弘，平野幸伸，青田安史：自由行動下のヒトにおける脳波および活動量のポータブル記録装置の開発．第 64 回日本自律神経学会総会，2011.10．秋田.
11. 平野幸伸，青田安史，櫻井博紀，山本武，井口睦仁，山田雅敏，栗田泰成：女子学生に対する睡眠衛生指導による運動パフォーマンス変化．第 1 回日本健康運動指導士会学術大会，2012.3．浜松.
12. 栗田泰成，平野幸伸，青田安史，櫻井博紀，山本武，二宮幸士：大腿骨近位部骨折後の身体および認知機能―術後回復期リハビリテーションにおける変化―．第 1 回日本健康運動指導士会学術大会，2012.3．浜松.
13. 二宮幸士，青田安史，平野幸伸，櫻井博紀，山本武，栗田泰成：就労者の睡眠習慣の改善を目的とした指導方法の検討．第 1 回日本健康運動指導士会学術大会，2012.3．浜松.
14. 平野幸伸，青田安史，櫻井博紀，山本武，井口睦仁：運動パフォーマンスにおけるヒラメ筋筋力特性．第 69 回日本体力医学会大会，2012.9．岐阜.
15. 平野幸伸,青田安史:地域高齢女性の日常生活活動強度と関連する運動指標.第 23 回日本老年医学会東海地方会，2012.10．名古屋.

16. 富永敬三，磯貝香，河上敬介：計測基点の違いによる転子果長計測の再現性．コ・メディカル形態機能学会第10回学術集会，2011.9.春日井.
17. 青田安史，平野幸伸：理学療法学生の睡眠衛生と生活習慣について～通学時間がおよぼす影響～．第24回日本リハビリテーション教育研究大会，2011.8．浜松.
18. 青田安史，平野幸伸，櫻井博紀，山本武，井口睦仁，山田雅敏，栗田泰成：睡眠衛生指導による気分プロフィール（POMS）の変化ー運動習慣の違いによる比較ー．第1回日本健康運動指導士会学術大会，2012.3.
浜松.
19. 櫻井博紀，佐藤純，吉本隆彦，大道裕介，森本温子，大道美香，西原真理，新井健一，牛田享宏：運動器慢性痛患者への環境温曝露試験　ー温度感覚異常を訴える症例の検討ー．第46回日本理学療法学術大会．2011.5．宮崎.
20. 大道裕介，大道美香，佐藤純，森本温子，吉本隆彦，櫻井博紀，西原真理，新井健一，大石仁，牛田享宏，中野隆，熊澤孝朗：下肢ギプス固定除去後に起こる血漿管外漏出は坐骨神経ブロックにより減弱する．第46回日本理学療法学術大会．2011.5．宮崎.
21. 吉本隆彦，森本温子，大道裕介，櫻井博紀，大道美香，山田雄士，長谷川義修，佐藤純，西原真理，新井健一，牛田享宏：慢性痛患者における運動時痛の出現パターンと筋に対する理学療法の効果．第46回日本理学療法学術大会．2011.5．宮崎.
22. 森本温子，大道裕介，櫻井博紀，吉本隆彦，大道美香，橋本辰幸，佐藤純，牛田享宏，岡田忠，熊澤孝朗：ラット後肢のギプス固定により出現する長期の機械的痛覚過敏に対して２週間のトレッドミル運動が及ぼす影響．第46回日本理学療法学術大会．2011.5．宮崎.
23. 森本温子，大道裕介，櫻井博紀，吉本隆彦，大道美香，橋本辰幸，牛田享宏，岡田忠，熊澤孝朗，佐藤純：ラット後肢ギプス固定後の機械的痛覚過敏に対するトレッドミル運動効果についての検討．第 33 回日本疼痛学会．2011.7．愛媛.
24. 森本温子，大道裕介，櫻井博紀，吉本隆彦，大道美香，橋本辰幸，佐藤純，牛田享宏，岡田忠，熊澤孝朗：ギプス固定後に出現する機械的痛覚過敏に対するトレッドミル運動の効果に関する研究．第 26 回日本整形外科学会基礎学術集会．2011.10．群馬.
25. 森本温子，大道裕介，櫻井博紀，下和弘，長谷川義修，林和寛，松原貴子，山田雄士，吉本隆彦，牛田享宏：慢性痛患者のチーム医療における理学療法的アプローチの効果検証．第4回日本運動器疼痛学会．2011.11．大坂.
26. 櫻井博紀：温度変化と痛みの評価について２．厚生労働省痛み研究班脊髄障害性疼痛症候群研究班会議．2011.12.
名古屋.
27. 森本温子，吉本隆彦，櫻井博紀，大道裕介，長谷川義修，山田雄士，西原真理，佐藤純，牛田享宏：慢性痛患者チーム医療における理学療法的アプローチの有効性に関連する因子の検索．第41回日本慢性疼痛学会．2012.1.
東京.
28. 櫻井博紀，平野幸伸，青田安史，山本武，井口睦仁，山田雅敏，栗田泰成：女子大学生に対する睡眠衛生指導による疼痛閾値変化の検討 - 運動習慣が異なる群を用いて - ．日本健康運動指導士会学術集会．2012.3．浜松.
29. 櫻井博紀，井上雅之，森本温子，井上真輔，池本竜則，牛田享宏：運動器慢性疼痛患者における姿勢・運動パターン評価法の開発の試み．第34回日本疼痛学会．2012.7．熊本.
30. 大道裕介，大道美香，櫻井博紀，浅本憲，牛田享宏，佐藤純：Tempol はギプス固定後慢性痛ラットの持続性の広範囲機械痛覚増強と脊髄アストロサイトの活性化を抑制する．第34回日本疼痛学会．2012.7．熊本.

31. Atsuko Morimoto, Takahiko Yoshimoto, Hiroki Sakurai, Yusuke Ohmichi, Yoshinori Hasegawa, Yuji Yamada and Takahiro Ushida : Effects of physical therapy and prognostic factors predict treatment outcome in multidisciplinary pain centre in Japan. 14th World Congress on Pain. 2012.8. Itary.
32. Yusuke Ohmichi, Mika Ohmichi, Hiroki Sakurai, Takashi Nakano, Ken Asamoto, Takahiro Ushida and Jun Sato : Inhibitory effects of tempol, a free radical scavenger, on long-lasting widespread mechanical hyperalgesia in a rat model of cast immobilization. 14th World Congress on Pain. 2012.8. Itary.
33. 森本温子, Handriadi Winaga, 大道裕介, 櫻井博紀, 吉本隆彦, 大道美香, 牛田享宏, 岡田忠, 佐藤純：ラット後肢ギプス固定後の機械的痛覚過敏に対するトレッドミル運動およびストレッチの効果. 第 27 回日本整形外科学会基礎学術集会. 2012.10. 名古屋.
34. 櫻井博紀, 井上雅之, 森本温子, 大道裕介, 井上真輔, 池本竜則, 新井健一, 西原真理, 佐藤純, 牛田享宏：姿勢・運動パターンによる運動器慢性疼痛患者評価の試み. 第5回日本運動器疼痛学会. 2012.11. 東京.
35. 勝見祐子, 松村剛志, 楯人士, 吉田英雄, 小野衣美, 堀田宗文：複数の介護リスクを抱えた在宅高齢者に対する通所リハビリテーション. 第5回静岡県理学療法士学会. 2011.6. 静岡.
36. 松村剛志：ノルディックウォーキングを用いた軽症パーキンソン病患者に対する早期介入の試み. 第3回ニューロリハビリテーション学会. 2012.2. 横浜.
37. 松村剛志, 吉田英雄, 勝見祐子, 楯人士, 堀田宗文：要介護者の ADL 能力の変化と介護者の介護負担感の関係からみた短時間通所リハビリテーションの役割. 第 47 回日本理学療法学術大会. 2012.5. 神戸.
38. 吉田英雄, 松村剛志, 楯人士, 小野衣美, 勝見祐子, 望月裕佑, 堀田宗文：当院短時間通所リハビリテーションの効果ー歩行可能な利用者の身体機能と活動状況の変化ー. 第 16 回静岡県理学療法士学会. 2012.6. 浜松.
39. 山本武, 平野幸伸, 青田安史, 櫻井博紀, 井口睦仁, 山田雅敏, 栗田泰成：筋伸張と筋収縮による筋・筋膜連結部の比較. 第1回日本健康運動指導士会学術集会, 2012.3, 浜松.
40. 山本武, 平野幸伸, 青田安史, 櫻井博紀, 井口睦仁：女子大学生に対する睡眠衛生指導による軟部組織硬度変化. 第 67 回日本体力医学会大会, 2012.9, 岐阜.
41. Yuta Itoh, Nobuhide Agata, Masumi Miyazu, Masahiro Sokabe, Keisuke Kawakami: Effect of resistance exercise on the recovery of atrophied muscles in mice. 8th International Congress of Comparative Physiology and Biochemistry. Jun 1-5.2011
42. Nobuhide Agata, Akito Kataoka, Masumi Inoue-Miyazu, Kimihide Hayakawa, Masahiro Sokabe, Keisuke Kawakami: Passive stretch suppresses muscle atrophy in rats: effects of duration and frequency of stretch: 8th International Congress of Comparative Physiology and Biochemistry. Jun 1-5.2011
43. Yuta Itoh, Nobuhide Agata, Masumi Miyazu, Takayuki Hirano, Keisuke Kawakami: Myonuclei Increase through Resistance Exercises on Mouse Skeletal Muscle that Underwent Muscle Atrophy. 16th International WCPT Congress. 20-23 June, 2011
44. Nobuhide Agata, Akito Kataoka, Masumi Inoue-Miyazu, Kimihide Hayakawa, Keisuke Kawakami: INFLUENCE OF DURATION AND FREQUENCY AT SUPPRESSIVE EFFECT OF REPETITIVE STRETCHING ON MUSCLE ATROPHY IN RATS. 16th International WCPT Congress 20-23 June, 2011.
45. 森友洋, 縣信秀, 柴田篤志, 岡元信弥, 宮津真寿美, 河上敬介: 遠心性収縮による再現性の高い筋損傷モデルの作製. 第1回日本基礎理学療法学会学術集会, 2011.5, 宮崎.

46. 伊東佑太，縣信秀，宮津真寿美，平野孝行，河上敬介：筋力増強運動の期間が萎縮筋の筋線維の太さや数，筋核数に与える影響．第 46 回日本理学療法学術大会，2011.5，宮崎.
47. 鈴木惇也，縣信秀，宮津真寿美，曽我浩之，河上敬介：除神経筋に対する伸張刺激の萎縮軽減効果は刺激周波数によって異なる．第 46 回日本理学療法学術大会，2011.5，：宮崎.
48. 清島大資，縣信秀，河上敬介：ラットの前肢における筋連結．第 117 回日本解剖学会全国学術集会，2012.4，山梨.
49. 伊東佑太，藤田佳菜子，縣信秀，宮津真寿美，平野孝行，河上敬介：筋力増強運動による萎縮筋の筋線維核数増加の時期や量．第 47 回日本理学療法学術大会，2012.5，兵庫.
50. 森友洋，縣信秀，柴田篤志，宮津真寿美，河上敬介：再現遠心性収縮による筋損傷モデルの組織学的・機能的回復．第 47 回日本理学療法学術大会，2012.5，兵庫.
51. 清島大資，縣信秀，河上敬介：ラットにおける筋連結の力学的影響．コメディカル形態機能学会第 11 回学術集会，2012.9，東京.
52. 縣信秀，外村和也，梅村和夫，筒井祥博：実験的脳梗塞における海馬歯状回と脳室壁上衣下領域の SOX2 陽性細胞への運動の影響．コメディカル形態機能学会第 11 回学術集会，2012.9，東京.
53. 森友洋，縣信秀，柴田篤志，宮津真寿美，宮本靖義，河上敬介：伸張刺激による筋損傷からの機能的回復促進効果．コメディカル形態機能学会第 11 回学術集会，2012.9．東京.

b) シンポジウム

1. 松田純，堂囿俊彦，古田精一，青田安史，天野ゆかり：「対人援助職の倫理的・法的対応能力の養成」～生命倫理学のすきま産業～．第 23 回日本生命倫理学会，2011．東京.
2. 縣信秀：基礎研究から考える理学療法の現状と今後の展開　最新の研究から考えた筋力低下に対する治療法とは? 機械刺激による筋萎縮軽減の分子メカニズムから考える．第 1 回日本基礎理学療法学会学術集会 シンポジウム，2011，：宮崎.

6）外部資金獲得状況

1. 筒井祥博（研究代表者）縣 信秀，梅村和夫（浜松医科大学薬理学）（分担研究者）：平成 22―24 年度日本学術振興会科学研究費補助金，基盤研究 C（継続）：実験的脳梗塞の神経発生と血管新生に与える運動負荷の効果．平成 23 年度、1170 千円；　平成 24 年度、1040　千円.
2. 磯貝香（研究代表者）：科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金），基盤研究 C，平成 24 年度－平成 26 年度．硬結内包皮膚ダミーを用いた触診技術向上支援システム．2,300 千円.
3. 松田純（研究代表者），青田安史（研究分担者）：科学研究費補助金，基盤研究 B，平成 24 年度．介護と在宅医療における倫理的・法的問題の検討　専門職の問題対応能力の向上のために．4,800 千円.
4. 櫻井博紀（研究代表者）．科学研究費補助金，若手研究(B)，平成 23 年度．運動器慢性痛の発症機序の解明　- 生後発達因子の行動組織学的研究から -．910 千円.
5. 櫻井博紀（研究代表者）．科学研究費補助金，若手研究(B)，平成 24 年度．運動器慢性痛の発症に関与する疼痛関連物質の生後発達因子からの探索．1,820 千円.
6. 縣信秀（研究代表者）：平成 24 年度科学研究費補助金，若手研究 B：冷刺激や温刺激はマクロファージの動態を変化させ，筋損傷からの回復を促進するか？．課題番号：23700640.

7）学会以外の講演等

1. 飯田登：プログラミング入門．平成23年度教員免許状更新講習会，2011.8，浜松大学.
2. 飯田登：プログラミング入門．平成24年度教員免許状更新講習会，2012.8，浜松大学.
3. 磯貝香：体表解剖学ーbased　徒手理学療法．第53回理学療法科学学会学術大会特別講演，2011.4，埼玉医科大学かわごえクリニック6F大会議室.
4. 磯貝香：運動機能評価の発展を目指して．東名リハビリテーション学院同窓会第2回研修会，　2012.8，名古屋第二赤十字病院3病棟1階研修会ホール.
5. 保村譲一：管理学総論．（社）日本理学療法士協会　専門領域管理・運営必須研修会，　2011.1，了徳寺学園リハビリテーション専門学校.
6. 保村譲一：望ましき SUPERVISIONー新人および実習生教育のためにー．履正社医療スポーツ専門学校　臨床実習指導者会議教育講演，2011.3，大阪新阪急ホテル.
7. 保村譲一：理学・作業療法士法ならびに関係法規．愛知県理学療法士会生涯学習部　新人教育プログラム研修会，2011，名古屋市鯱城ホール.
8. 保村譲一：リハビリテーション部門のマネジメント―職場管理の事例検討―．（社）日本理学療法士協会　専門領域教育・管理理学療法研究会　第10回管理運営研修会，2011.5，富山県総合福祉会館.
9. 青田安史：ＩＣＦ（国際生活機能分類）について．静岡県介護支援専門相談員実務従事者基礎研指導検討会，2011，静岡労政会館.
10. 青田安史：ケアマネジメントのプロセスとその基本的考え方―モニタリング．静岡県介護支援専門相談員実務従事者基礎研修会，　2011，静岡労政会館.
11. 青田安史：サービスの活用と連携―通所リハビリテーション．静岡県介護支援専門相談員専門研修課程，　2011，グランシップ静岡.
12. 青田安史：睡眠から考える健康づくり．愛知県一宮市高齢者大学講座，　2011，一宮市民会館.
13. 青田安史：ＩＣＦの考え方．静岡県介護支援専門相談員演習指導者事前説明会，2011，静岡産業経済会館.
14. 青田安史：睡眠から考える健康づくりⅡ．愛知県一宮市貯筋教室，2012，一宮市尾西生涯学習センター.
15. 青田安史：ＩＣＦ（国際生活機能分類）について．静岡県平成24年度介護支援専門相談員実務従事者基礎研修指導者研修会，2012，静岡市もくせい会館.
16. 青田安史：ケアマネジメントのプロセスとその基本的考え方―モニタリング．静岡県介護支援専門相談員実務従事者基礎研修会，　2012，グランシップ静岡.
17. 青田安史：睡眠から考える健康づくり．平成24年度静岡大学公開講座，2012，静岡市女性会館アイセル21.
18. 青田安史：保健医療の基礎理解―リハビリテーション．静岡県介護支援専門相談員専門研修課程，2012，グランシップ静岡.
19. 櫻井博紀：運動器の長引く痛み．一宮市市民公開講座 一宮市高齢者大学講座，一宮市民会館.
20. 櫻井博紀：複合性局所疼痛症候群（CRPS）の評価と運動療法　慢性痛症の基礎研究．（社）日本理学療法士協会主催理学療法士講習会，東京臨海病院.
21. 松村剛志：生活環境支援．静岡県理学療法士会新人教育プログラム，2011.11，常葉静岡リハビリテーション専門学校.
22. 松村剛志：生活環境支援系理学療法　何を支援し，何を検証するのか？ー訪問リハビリテーションの臨床からー．静岡県理学療法士会研修会，2012.8，静岡あざれあ.

23. 松村剛志：ストレッチングと呼吸法による身体的ストレスの緩和．静岡県社会就労センター協議会講習会　，2012.11，静岡パルシェ．
24. 松村剛志：パーキンソン病と上手に付き合うためにー早期に運動，長期に健やかー．浜松大学エクステンションセンター公開講座，2012.11，浜松大学．

8）その他

1. 筒井祥博：私の医学の原点としての聖路加．聖路加トライスラークラブ医師同窓会会報 29：12-14，2012.
2. 筒井祥博：リハビリテーション教育に携わって．浜松医科大学同窓会誌　22：11，2012.

作業療法学科

1）著書

1. 松岡幸彦：スモン研究の歴史．スモンの集い2011．厚生労働省科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）スモンに関する調査研究班発行，pp10-17，2012．分担著
2. 河合正好：精神科領域における認知行動療法．心理臨床の広がりと深まり，山中康裕編集，第7章，pp220－30，2012．分担著
3. 河合正好、武井教使:摂食障害の疫学と予後.脳とこころのプライマリケア,中山和彦編集,第7巻II章,pp64-75,2011．分担著
4. 河合正好、渡邊知子：摂食障害の心理学．脳とこころのプライマリケア，中山和彦編集　第7巻II章，pp85-98，2011．分担著
5. 小野弘：　器質性精神障害（急性期）．　OT臨地実習ルートマップ，菊池恵美子編，pp.214-222，MEDICAL VIEW社，2011．分担著
6. 小野弘：精神作用物質による障害（急性期）．OT臨地実習ルートマップ，菊池恵美子編，pp.223-230，MEDICAL VIEW社，2011．分担著
7. 渡邊雅行：最新介護福祉士合格完全ガイド．　pp403-490，pp443-490，　日本文芸社，2011．分担著
8. 野藤弘幸：摂食・嚥下．新田孜，笹田哲，内昌之編集，知りたかったPT・OTのための発達ガイド，pp66-71，金原出版株式会社，2012．分担著

2）総説

1. 河合正好：ケースカンファレンス．浜松大学臨床心理事例研究3（1）：33－36，2012.
2. 河合正好：精神科領域での漢方薬の使用．浜松大学保健医療学部紀要3（1）：17-24，2012.
3. 野藤弘幸：Kielhofner教授から学んだこと．作業行動研究15(4),176-180，2012.
4. 菊池恵美子，作業療法就労支援研究会（秋山尚也，大川浩子，木村伊津子，齋藤陽子，中村俊彦，野崎智仁，港美雪，峯尾　舞，宮原智子：就労支援（通勤を含む）に伴う環境整備と社会資源．作業療法ジャーナル 46(7)：1001-1005，2012.

3）原著論文

1. 松岡幸彦：スモン患者におけるQOL―SF-8を用いた検討．浜松大学保健医療学部紀要2(1)：1-5，2011.
2. 酒井素子、小長谷正明、松岡幸彦：Adrenomyeloneuropathy（副腎脊髄ニューロパチー．神経内科　77(1)：43-48，2012.
3. 山田英徳：微笑みと脳血流について．笑い学研究　19：86-95，2012.
4. 中村俊彦，山田英徳：基礎作業学演習における作業分析の傾向　ー釘打ち作業の分析を例にー．浜松大学保健医療学部紀要3(1)：45-49，2012.
5. 有田史則，南征吾，河津拓，野藤弘幸，山田孝：医療チームでクライアントの意志の作業療法評価の共有により作業機能障害の改善に結びついた事例．作業行動研究 15：10-19，2011.
6. 早川亮，南征吾，河津拓，野藤弘幸，山田孝：作業に焦点をあてた介入により終末期において作業参加が改善した事例．作業行動研究15：29-37，2011.

7. 南征吾，河津拓，大松慶子，野藤弘幸，山田孝：在学中に作業療法士による事例検討会へ参加することの意味. 作業療法教育研究 11：54-59，2011.
8. 野藤弘幸，山田孝，小林法一：「人間作業モデルスクリーニングツール」と「作業に関する自己評価・改訂版」の信頼性と妥当性に関する研究. 作業行動研究 15：119-126，2011.
9. 鹿田将隆，野藤弘幸，山田孝：頭部外傷により意志の表出が困難となった事例へのクライアント中心の実践. 作業行動研究 15：161-170，2012.
10. 野藤弘幸，山田孝，小林法一：高齢期障害領域の医療機関で働く看護師・理学療法士の作業療法に対する意識調査. 作業療法 31：375-385，2012.
11. Oboshi Y, Ouchi Y, Yagi S, Kono S, Nakai N, Yoshikawa E, Futatsubashi M, Terada T, Kim K, Harada K: In vivo mesolimbic D2/3 receptor binding predicts posttherapeutic clinical responses in restless legs syndrome: a positron emission tomography study. J Cereb Blood Flow Metab. Apr; 32 (4): 654-662, 2012.

4）報告

1. 渡邊雅行，松村剛志：「国際理学療法学」「国際作業療法学」に関する学生意識調査. リハビリテーション教育研究. 17 ：90-91，2012.
2. 渡邊雅行:海外の地域リハビリテーションから学ぶ-青年海外協力隊隊員からの発信第 1 回青年海外協力隊としてネパールの CBR にかかわった経験から…（その 1）. 地域リハビリテーション 7（1）：58-60，2012.
3. 渡邊雅行:海外の地域リハビリテーションから学ぶ-青年海外協力隊隊員からの発信第 2 回青年海外協力隊としてネパールの CBR にかかわった経験から…（その 2）. 地域リハビリテーション 7（2）：151-153，2012.
4. 渡邊雅行:海外の地域リハビリテーションから学ぶ-青年海外協力隊隊員からの発信第 3 回青年海外協力隊としてネパールの CBR にかかわった経験から…（まとめ）. 地域リハビリテーション 7（3）：229-232，2012.
5. 工藤俊輔,前田紀子,渡邊雅行,三田純子:ネパールにおける CBR の現状と課題.秋田大学保健学専攻紀要 20 (2): 57-65，2012.
6. 中村俊彦，山田英徳：木工作業（鋸引き）の治療的効果を学生はどのように感じたか ー作業分析用語における基礎医学的視点の検討ー. 保健医療学部紀要 2(1)：33-37，2011.
7. 中村俊彦，渡邊雅行，峰野和仁，桑原 望：浜松フルーツミュージアム発進！-6 次産業化に見る新たな就労支援モデルー. 作業療法ジャーナル 46(5)：484-485，2012.
8. 野藤弘幸：作業を通した障害体験の意味づけ. 浜松大学保健医療学部紀要 2：29-32. 2011.
9. 村岡健史，大星有美：臨床実習とパソコン操作能力との関係性について-多変量解析による分析の試み-. 浜松リハビリテーション研究会学術誌 6：33-41，2011.
10. 村岡健史，渡邊雅行，遠藤浩之：東日本大震災における災害支援活動報告-岩手県・宮城県における作業療法士としての取り組み-. 浜松大学保健医療学部紀要 3(1)：57-65，2012.
11. 遠藤浩之，村岡健史：東日本大震災における専門学校での取り組み-学生の意識調査・経験を伝える-. 作業療法教育研究 12(1)：23-26，2012.
12. 陣内大輔，澤 俊二，遠藤浩之：第 47 回作業療法士国家試験について（報告）. 日本作業療法協会誌 1：15-22，2012.
13. 陣内大輔，澤 俊二，遠藤浩之：第 47 回作業療法士国家試験について（第 2 報）. 日本作業療法協会誌 4：8-9，2012.

５）学会発表

a)一般演題

1. 小野弘，板倉麻紀，黒川喬介，大関健一郎：作業療法学科学生における不確実事象の認知次元．第46回日本作業療法学会，2011．6．大宮．
2. 渡邊雅行，三田純子，渡邊長　：ネパールにおける高齢者の作業選択．第46回日本作業法学会．2012．6．宮崎．
3. 三田純子．渡邊雅行　：国際協力における現地スタッフとの協働作業　青年海外協力隊の活動を配属先に残すために．第46回日本作業療法学会，2012．6．宮崎．
4. 渡邊雅行，三田純子　：作業療法士として国際協力NGO活動上の課題．第12回東海北陸作業療法学会．2012．11．静岡．
5. 山田英徳：主観的に筋力を発揮した場合の筋力の出力状況について－等速性運動の場合－．第４６回日本作業療法学会，2012．6　宮崎．
6. 山田英徳，村岡健史，大星有美：セラピストの言葉掛けによる段階付けに関する調査－「強い」と「少し強い」の使用にみられる特徴－．第11回東海北陸作業療法学会,2011.11,福井．
7. 中村俊彦，山田英徳：釘打ち動作と刻印打ち動作の作業分析に関する研究－学生は動作の違いをどのように捉えたか－．第46回日本作業療法学会，2011．6．大宮
8. 中村俊彦，酒井ひとみ，大川浩子，齋藤陽子，建木　健，峰野和仁，宮原智子：第40回日本職業リハビリテーション学会,自主ワークショップ「明日から使えるアセスメントと作業分析～作業療法士の視点を加えて～」,2012.8.九州看護福祉大学．
9. 藤原明日香，秋山尚也，竹山由里子，野藤弘幸：復職への動機づけに焦点をあてた作業療法―脳幹出血を呈した事例を通して．第24回静岡県作業療法学会，2011．5．三島
10. 鹿田将隆，野藤弘幸：頭部外傷により自発性が低下した事例への人間作業モデル評価を用いたアプローチ．第21回日本作業行動学会学術集会，　2011．9．東京
11. Kenji Yabuwaki，Kazuki Hirao，Kazuya Shinohara，Hiroyuki Notoh，Takashi Yamada：Effects of occupational therapy-based comprehensive environmental support on therehabilitation of elderly living at home: a randomized controlled study. The 1st World congress on healthy aging，2012.3．Kuala Lumpur.
12. 野藤弘幸，山田孝，小林法一，石井良和：人間作業モデルスクリーニングツールの信頼性の検討～古典的テスト理論とRaschモデルを用いて～．第22回日本作業行動学会学術集会，2012．9 名古屋.
13. 村岡健史，渡邊雅行：災害時におけるリハビリテーションチームの役割について-岩手県釜石市・大槌町・山田町での経験から学んだこと-．社会貢献学会第2回大会，2011.12．神戸.
14. 村岡健史，鈴木達也，小貫貢，菅原章：東日本大震災における作業療法士の役割について-日本作業療法士協会岩手県第１次派遣隊の活動報告-．第46回日本作業療法学会，2012．6．宮崎.
15. 前島亮，伊藤崇志，山田英徳，村岡健史：当院回復期リハビリテーション病棟における訪問指導実施判断について．第12回東海北陸作業療法学会，2012．11．静岡.
16. 八木俊輔，尾内康臣，坂本政信，吉川悦次，大星有美，間賀田泰寛：初期パーキンソン病におけるドパミン・GABA神経系の病態的連関のin vivo研究．第52回日本神経学会学術大会,2011.5．名古屋.
17. 尾内康臣，八木俊輔，河野智，吉川悦次，大星有美，中井紀嘉，坂本政信：特発性Restless legs syndromeにおける線条体ドパミンD2受容体とGABA系の変化．第52回日本神経学会学術大会,2011.5．名古屋.

18. Ouchi Y, Yagi S, Yoshikawa E, Futatsubashi M, Kanno T, Oboshi Y, Kono S, Nakai N, Sakamoto M: Striatal D2 receptor and GABAgic functions in early idiopathic restless legs syndrome. The 17th Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping, 2011.6. Quebec City, Canada.
19. 大星有美, 菊知充, 八木俊輔, 吉川悦次, 間賀田泰寛, 尾内康臣：Visual working memory task における高齢者の前頭前野活動の特徴. 第14回日本光脳機能イメージング研究会, 2011.7. 東京.
20. 大星有美, 菊知充, 八木俊輔, 吉川悦次, 間賀田泰寛, 尾内康臣:Differences in visual orking memory task-induced cerebral blood flow responses in the frontal region between cognitively normal young and old subjects (若年と高齢者の前頭葉皮質における視覚作業記憶課題中の脳血流反応差の検討). 第 34 回日本神経科学大会, 2011.9. 横浜.
21. 八木俊輔, 尾内康臣, 吉川悦次, 竹林淳和, 大星有美, 坂本政信, 間賀田泰寛:In vivo relation between dopaminergic damage and GABA function in early Parkinson's disease (初期パーキンソン病におけるドパミン神経障害とGABA 神経機能の関連について). 第34回日本神経科学大会, 2011.9. 横浜.
22. 尾内康臣, 寺田達弘, 八木俊輔, 吉川悦次, 大星有美, 坂本政信：ヒト脳におけるニコチン性α4β2 受容体密度の PET 簡便測定法. 第53回日本神経学会, 2012.5. 東京.
23. Ouchi Y, Terada T, Yagi S, Oboshi Y, Yoshikawa E, Futatsubashi M, Kanno T, Ogawa M, Magata Y: Binding of α4β2 nicotinic acetylcholine receptor and cognition in normal subjects. The 18th Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping, 2012.6. Beijing, China.
24. 大星有美, 菊知充, 清水良幸, 八木俊輔, 間賀田泰寛, 尾内康臣：SPM を用いた視覚課題中の若年者と高齢者の前頭前野活動の相違の検討. 第14回日本ヒト脳機能マッピング学会, 2012.7. 札幌.
25. 大星有美, 尾内康臣, 八木俊輔, 間賀田泰寛：パーキンソン病におけるドパミン神経と GABA 神経系に関する病態研究. 分子イメージング研究戦略推進プログラム 成果発表シンポジウム 2012, 2012.8. 神戸.
26. 尾内康臣, 寺田達弘, 大星有美, 小川美香子, 間賀田泰寛, 鳥塚達郎, 二ッ橋昌実, 吉川悦次, 岡田裕之, 菅野敏彦, 谷崎靖夫:アルツハイマー病における脳内ニコチン性α4β2 受容体の変化. 第52回日本核医学会, 2012.10. 札幌.
27. 遠藤浩之, 山本真美, 鈴木智子, 山崎大輔, 大星有美, 兵永純一：作業療法養成教育の現状とこれから－4 年制専門学校はどうだったのか―, 第24回静岡県作業療法学会, 2011. 5. 三島.
28. 岩崎テル子, 遠藤浩之：地域作業療法教育カリキュラムの検討. 第17回日本作業療法教育学術集会, 2012. 10. 東京.

b) シンポジウム

1. 阿部順子, 中村俊彦, 濱田小夜子, 金田祥史, 繁野玖美, 古谷香奈：第39回日本職業リハビリテーション学会, 大会企画分科会「高次脳機能障害者が働き続けるために～生活支援・居場所・余暇支援に焦点を当てて～」, 2011. 8. 愛知県立大学
2. 長谷龍太郎, 村田和香, 石井良和, 野藤弘幸：キールホフナー教授から学んだこと. シンポジュウム「キールホフナー教授から学んだこと」. 第21回日本作業行動学会学術集会, 2011. 9. 東京

6）学会以外の講演等

1. 松岡幸彦：スモン研究の歴史．スモンの集い2011，2011.10．名古屋.
2. 渡邊雅行：日本と世界の作業療法の動向．平成23年度第2回現職者共通研修，静岡県作業療法士会，2012．2. 浜松.
3. 渡邊雅行：リハビリテーション．平成23年度訪問介護員養成研修（2級課程）．グローバル人財サポート浜松，2012．2．浜松.
4. 三浦貴麿，渡邊雅行，岡庭隆門，鈴木達也：世界の反応と他職種の取り組みについて．災害医療と災害ボランティア-作業療法士たちの 3.11-パネルディスカッション「静岡県内作業療法士によるパネルディスカッション」，静岡県作業療法士会災害対策委員会，2012．3．浜松.
5. 野藤弘幸：作業療法コラボレーション2011，「人間作業モデルと神経リハビリテーション」，2010,11．東京.
6. 村岡健史：エビデンスと作業療法実践．日本作業療法士協会現職者共通研修会，2011.4.静岡.
7. 村岡健史，遠藤浩之，鈴木達也：日本作業療法士協会岩手県第1次派遣隊ボランティア活動報告．静岡県作業療法士会災害対策委員会報告会，2011．7.浜松.
8. 村岡健史，山岡美須永：被災地における災害医療活動について．地域防災講座，2011.9.浜松.
9. 村岡健史，渡邊雅行，岡庭隆門，鈴木達也，三浦貴麿：災害医療と災害ボランティア-作業療法士たちの 3.11-．第1回静岡県作業療法士会災害対策委員会研修会，2012.3.浜松.
10. 村岡健史：エビデンスと作業療法実践．日本作業療法士協会現職者共通研修会，2012.4.静岡.
11. 遠藤浩之：作業療法の可能性．静岡県作業療法士会現職者講習会，2012.2.浜松.
12. 遠藤浩之：災害支援活動における専門職の役割．地域リハビリテーション推進事業研修会，2012.3.浜松.

浜松大学 研究活動一覧

平成 23・24 年度

平成 25 年 3 月発行
発行：浜松大学 自己点検・評価委員会

〒431-2102　静岡県浜松市北区都田町 1230
(053)428－3511（代表）
http://www.hamamatsu-u.ac.jp/